

平成 20 年度  
「卒業生・就職先雇用者による教育評価」  
報告書

平成 22 年 8 月

宮崎大学農学部

## はじめに

本報告書は、平成 17 年度から開始された宮崎大学農学部卒業生及びその就職先雇用者に対してのアンケートをとりまとめたもので、これが 4 回目の刊行となります。

教育システムは、さまざまな立場から、また、さまざまな局面において評価されなければなりません。ここに公表するものは、宮崎大学農学部の教育システムを卒業生や就職先雇用者の方々から評価していただき、教育システムの改善に役立てようという意図によるものであります。アンケートの送付や回収率等、まだまだ十分な内容とは申せませんが、各位にご高覧いただき、忌憚のないご意見をお寄せいただきますようお願いする次第です。

大学における「教育研究活動等」の自己点検・評価とその結果公表の義務化が始動（大学設置基準第 2 条、平成 11 年）して 10 年が経過しました。そろそろ「自己点検・評価とその結果公表」そのものも評価されなければならないのかも知れません。

末筆ながら、アンケートにご協力いただいた卒業生及び雇用先雇用者の方々に厚くお礼申し上げ、本農学部への変わらぬご支援をお願い申し上げます。

平成 22 年 8 月 6 日

宮崎大学農学部長 川村 修

## 目次

	ページ
1. アンケート送付数と回答数	1
2. 質問	3
(1) 学部卒業生	3
(2) 大学院修了生	4
(3) 雇用者（学部卒業生）	5
(4) 雇用者（大学院修了生）	6
3. 回答の概要	7
(1) 学部卒業生	7
(2) 雇用者（学部卒業生）	7
(3) 大学院修了生	7
(4) 雇用者（大学院修了生）	7
4. 個別意見	8
(1) 学部卒業生	8
(2) 雇用者（学部卒業生）	9
(3) 大学院修了生	12
(4) 雇用者（大学院修了生）	12
5. 学部・学科の傾向	14
A. 食料生産科学科	14
B. 生物環境科学科	14
C. 地域農業システム学科	16
D. 応用生物科学科	17
E. 獣医学科	17
6. 大学院・専攻の傾向	19
A. 生物生産科学専攻	19
B. 地域資源管理科学専攻	19
C. 森林草地環境科学専攻	19
D. 水産科学専攻	20
E. 応用生物科学専攻	21

## 付図・付表

- (1) 卒業生アンケート集計結果（学部：学科別）
- (2) 修了生アンケート集計結果（大学院：専攻別）
- (3) 雇用者アンケート集計結果（学部：学科別）
- (4) 雇用者アンケート集計結果（大学院：専攻別）

## 1. アンケート送付数と回答数

学部卒業生へのアンケート送付数と回答数

第80回（通算）平成21年3月卒

学科	送付数	回答数	回収率 (%)
食料生産科学科	45	8	18
生物環境科学科	46	21	46
地域農業システム学科	49	6	12
応用生物科学科	27	15	56
獣医学科	25	1	4
合計	192	51	27

雇用者（学部卒業生）へのアンケート送付数と回答数

第80回（通算）平成21年3月卒

学科	送付数	回答数	回収率 (%)
食料生産科学科	38	13	34
生物環境科学科	41	19	46
地域農業システム学科	45	14	31
応用生物科学科	27	11	41
獣医学科	26	11	42
合計	177	68	38

大学院修了生へのアンケート送付数と回答数  
第40回（通算）平成21年3月修了

専攻	送付数	回答数	回収率 (%)
生物生産科学専攻	18	3	17
地域資源管理科学専攻	7	2	29
森林草地環境科学専攻	15	5	33
水産科学専攻	14	1	7
応用生物科専攻	22	8	36
合計	76	19	25

雇用者（大学院修了生）へのアンケート送付数と回答数  
第40回（通算）平成21年3月修了

専攻	送付数	回答数	回収率 (%)
生物生産科学専攻	20	8	40
地域資源管理科学専攻	7	2	29
森林草地環境科学専攻	16	3	19
水産科学専攻	14	2	14
応用生物科専攻	24	5	21
合計	73	20	27

## 2. 質問

### (1) 学部卒業生

- 質問1. 大学全体の教育を通して「幅広い視野に立って多面的に物事を考える能力」が身につきましたか？
- 質問2. 「科学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および科学技術に携わる専門家が社会に対して負っている責任に関する理解」が身につきましたか？
- 質問3. 広く「農学」に関する「基礎知識」が身につきましたか？
- 質問4. 所属した学科以外の関連科目の修得によって得られる「専門的知識」が身につきましたか？
- 質問5. 「実験または調査を計画・遂行し、データを正確に解析・考察し、かつ説明する能力」が身につきましたか？
- 質問6. 「専門的な知識および技術を駆使して、課題を探求し、組み立て、解決する能力」が身につきましたか？
- 質問7. 「実社会において経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する能力と判断力」が身につきましたか？
- 質問8. 「社会の要求に対して様々な情報を収集・分析し、対応策を企画する能力」が身につきましたか？
- 質問9. 「日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力」が身につきましたか？
- 質問10. 「自主的、継続的に学習できる能力」が身につきましたか？
- 質問11. 「与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力」が身につきましたか？
- 質問12. 宮崎大学農学部で受けた教育に対する総合評価を次の5つの中からお選びください。
- 質問13. 就職や進路決定において、クラス担任あるいは指導教員から適切なアドバイスを受けましたか？
- 質問14. 宮崎大学農学部及び各学科で受けた講義や実習の中で現在の業務に生かされていると思われるものがありましたか。「あった」と答えた方は、具体的な科目名をお書き下さい。科目名が不明の場合は分野・内容や担当教員名でも結構です（複数回答可）。
- 質問15. 宮崎大学農学部での教育について今後改善すべき点など、ご意見をお書きください。

○食料生産科学科、生物環境科学科、地域農業システム学科の卒業生のみお答え下さい

- 質問1. 「所属学科の各専門分野に関する履修モデル」に沿って専門の授業科目を履修しましたか？
- 質問2. 「所属学科の各専門分野に関する履修モデル」は卒業論文の作成や就職に役立ちましたか？

○獣医学科を卒業された方のみお答えください。

- 質問1. 獣医学科における教育カリキュラム（講座専修実験、卒業論文を含む）は「獣医師国家試験」の受験に役立ちましたか？

## (2) 大学院修了生

- 質問1. 大学全体の教育を通して「幅広い視野に立って多面的に物事を考える能力」が身につきましたか？
- 質問2. 「科学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および科学技術に携わる専門家が社会に対して負っている責任に関する理解」が身につきましたか？
- 質問3. 広く「農学」に関する「基礎知識」が身につきましたか？
- 質問4. 所属した講座以外の関連科目の修得によって得られる「専門的知識」が身につきましたか？
- 質問5. 「実験または調査を計画・遂行し、データを正確に解析・考察し、かつ説明する能力」が身につきましたか？
- 質問6. 「専門的な知識および技術を駆使して、課題を探求し、組み立て、解決する能力」が身につきましたか？
- 質問7. 「実社会において経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する能力と判断力」が身につきましたか？
- 質問8. 「社会の要求に対して様々な情報を収集・分析し、対応策を企画する能力」が身につきましたか？
- 質問9. 「日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力」が身につきましたか？
- 質問10. 「自主的、継続的に学習できる能力」が身につきましたか？
- 質問11. 「与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力」が身につきましたか？
- 質問12. 宮崎大学農学研究科で受けた教育に対する総合評価を次の5つの中からお選びください。
- 質問13. 就職や進路決定において、クラス担任あるいは指導教員から適切なアドバイスを受けましたか？
- 質問14. 宮崎大学農学研究科及び各専攻・講座で受けた講義や実習の中で現在の業務に生かされていると思われるものがありましたか。「あった」と答えた方は、具体的な科目名をお書き下さい。科目名が不明の場合は分野・内容や担当教員名でも結構です（複数回答可）。
- 質問15. 宮崎大学農学研究科での教育について今後改善すべき点など、ご意見をお書きください。

○生物生産科学専攻、地域資源管理科学専攻、森林草地環境科学専攻、水産科学専攻の修了生のみお答え下さい

- 質問1. 「所属専攻・講座の各専門分野に関する履修モデル」に沿って専門の授業科目を履修しましたか？
- 質問2. 「所属講座の各専門分野に関する履修モデル」は修士論文の作成や就職に役立ちましたか？

### (3) 雇用者（学部卒業生）

- 質問 1. 卒業生は「地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養」を身につけていますか？
- 質問 2. 卒業生は「科学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および科学技術に携わる専門家が社会に対して負っている責任に関する理解」を身につけていますか？
- 質問 3. 卒業生は「食料生産科学、生物環境科学、地域農業システム学、応用生物科学、獣医学に関する基礎知識」を身につけていますか？
- 質問 4. 卒業生は「食料生産科学、生物環境科学、地域農業システム学、応用生物科学、獣医学の各関連科目の修得によって得られる専門的知識」を身につけていますか？
- 質問 5. 卒業生は「実験または調査を計画・遂行し、データを正確に解析・考察し、かつ説明する能力」を身につけていますか？
- 質問 6. 卒業生は「専門的な知識および技術を駆使して、課題を探求し、組み立て、解決する能力」を身につけていますか？
- 質問 7. 卒業生は「実社会において経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する能力と判断力」を身につけていますか？
- 質問 8. 卒業生は「社会の要求に対して様々な情報を収集・分析し、対応策を企画する能力」を身につけていますか？
- 質問 9. 卒業生は「日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力」を身につけていますか？
- 質問 10. 卒業生は「自主的、継続的に学習できる能力」を身につけていますか？
- 質問 11. 卒業生は「与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力」を身につけていますか？
- 質問 12. 卒業生が宮崎大学農学部で受けた教育に対する総合評価を次の 5 つの中からお選びください。
- 質問 13. 宮崎大学農学部での教育について今後改善すべき点など、ご意見をお書きください。



#### (4) 雇用者（大学院修了生）

- 質問 1. 修了生は「地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養」を身につけていますか？
- 質問 2. 修了生は「科学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および科学技術に携わる専門家が社会に対して負っている責任に関する理解」を身につけていますか？
- 質問 3. 修了生は「生物生産科学、地域資源管理科学、森林草地環境科学、水産科学、応用生物科学に関する基礎知識」を身につけていますか？
- 質問 4. 修了生は「生物生産科学、地域資源管理科学、森林草地環境科学、水産科学、応用生物科学の各関連科目の修得によって得られる高度な専門的知識」を身につけていますか？
- 質問 5. 修了生は「実験または調査を計画・遂行し、データを正確に解析・考察し、かつ説明する能力」を身につけていますか？
- 質問 6. 修了生は「高度な専門的な知識および技術を駆使して、課題を探求し、組み立て、解決する能力」を身につけていますか？
- 質問 7. 修了生は「実社会において経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する能力と判断力」を身につけていますか？
- 質問 8. 修了生は「社会の要求に対して様々な情報を収集・分析し、対応策を企画する能力」を身につけていますか？
- 質問 9. 修了生は「日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力」を身につけていますか？
- 質問 10. 修了生は「自主的、継続的に学習できる能力」を身につけていますか？
- 質問 11. 修了生は「与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力」を身につけていますか？
- 質問 12. 修了生が宮崎大学大学院農学研究科で受けた教育に対する総合評価を次の 5 つの中からお選びください。
- 質問 13. 宮崎大学大学院農学研究科での教育について今後改善すべき点など、ご意見をお書きください。

### 3. 回答の概要

#### (1) 学部卒業生

質問 1～11 において、身についた（十分身についたを含む）と回答した割合が 60%以上であるのは、質問 1～6, 10, 11 であった。これらの質問は、多面的に物事を考える能力、技術者倫理、基礎知識、専門知識、実験デザイン能力・解析力・説明能力、課題探求能力、自己学習能力、計画的に仕事をすすめてまとめる能力に関連する項目である。これらのことから、基礎および専門教育により成り立つ課題探求型教育に対して良好な評価が得られていることが示された。

一方、身についた（十分身についたを含む）と回答した割合が 40%を下回る項目はなかった。

総合評価も 70%が満足している（十分満足しているを含む）であり、卒業生からの評価は概ね良好であると考えられた。

#### (2) 雇用者（学部卒業生）

質問 1～11 において、身につけている（十分身につけているを含む）と回答した割合が 60%以上であるのは、質問 3, 7, 10, 11 であった。これらの質問は、基礎知識、社会的適応力、自己学習能力、計画的に仕事を進めてまとめる能力に関連する項目である。

一方、身につけている（十分身につけているを含む）と回答した割合が 40%を下回る項目はなかった。

総合評価も 65%が満足している（十分満足しているを含む）となっており、雇用者からの評価は概ね高いものと考えられる。

#### (3) 大学院修了生

質問 1～11 において、身についた（十分身についたを含む）と回答した割合が 60%以上であるのは、質問 1～6, 8, 10～11 であった。これらの質問は、多面的に物事を考える能力、技術者倫理、基礎および専門知識、実験デザイン能力、解析力、まとめる能力、説明能力、社会的要  
求理解、自己学習能力、課題探求能力に関連する項目である。

一方、身についた（十分身についたを含む）と回答した割合が 40%を下回る項目はなかった。

総合評価も満足している（十分満足しているを含む）が 74%であり、修士課程の教育に良好な評価が得られているものと考えられた。

#### (4) 雇用者（大学院修了生）

質問 1～11 において、身につけている（十分身につけているを含む）と回答した割合が 60%以上であるのは、質問 1～5, 7～11 であった。これらの質問は、多面的に物事を考える能力、技術者倫理、基礎知識、専門知識、実験デザイン能力、解析力、説明能力、社会的適応力、社会要求理解、自己学習能力、計画的に仕事を進めてまとめる能力に関連する項目である。

一方、身につけている（十分身につけているを含む）と回答した割合が 40%を下回る項目はなかった。

総合評価も 75%が満足している（十分満足しているを含む）となっており、雇用者からの評価は高いものと考えられる。

## 4. 個別意見

### (1) 学部卒業生

卒業生の個別の意見としては、質問 15 に数多くの意見が寄せられた。

#### ①食料生産科学科

- ・教員を増やすべきです。
- ・学科を超えて講義が自由選択できた点は興味の幅を広げることができ、「これから」に役立てることができると思います。ぜひ継続していただきたいです。
- ・実習を増やすべきだと思います。
- ・小テストや中間テストを積極的に行うべきだと考えます。
- ・1・2年は空きコマが多く時間をもて余しますが、3・4年は返って忙しすぎます。

#### ②生物環境科学科

- ・フィールドで行う実習がもう少し増えてもいいと思う。
- ・所属する学科内の教員達とコミュニケーションがとれる場をもっと増やしてもいいと思う。
- ・自習室の数が少ない。図書館は土日も開けてほしい。また夜遅くまで開けてほしい。
- ・研究室での勉強、研究、研究室の中の上下関係など、かなり役に立ちました。1・2年の頃の授業をもっと増やしてほしいです。
- ・就職や進路決定の時に、所属学科の各専門分野の先生方と生徒が集まって、どういった就職先があるのか、どういう進路があるのかを話し合っ、そこで生徒達がアドバイスを貰えるような機会を作ってみてはいかがでしょうか。
- ・研究室によって将来が変わってくるので、行きたい研究室に行けるようにした方が良いと思います。
- ・授業やその他を含めて、宮崎大学で過ごした学生生活はとても充実したものになったと思っています。
- ・企業でのインターンシップをもっと取り入れるべき。
- ・For the evaluation of every lecture to get results, it would be nice to conduct examinations (ex: final exams), reports. Thank you.
- ・研究室によって実験器具、研究室内の教育環境に若干、差がある気がします。
- ・ほとんどの実習・実験は良い経験となるので、選択ではなく必修にすべきだと考える。
- ・現在のままで十分良いと思います。

#### ③地域農業システム学科

- ・学科・講座によっては、学科内、講座内の授業の一貫したテーマがないから、何を勉強しているか分からなかった。
- ・開講されている授業の量(数)にも偏りがあったように思う。
- ・卒論に取り組むにあたって必要と思われる知識を習う授業がなかった(統計、実験)。
- ・就職活動と関係することだが、共通教育の「コミュニケーション教育」は3年の前期に開講した方が効果的であると思う(就活に向けて意識作りが出来る)。

- ・農家さん等、実際に農林畜産業に携わっている方々と接する場を多くするべきではないかと思う（経験を通じた方が知識の習得にも役立つと思う）。

#### ④応用生物科学科

- ・応用生物科の技術士補認定カリキュラムですが、あまり有効性の高い資格だとは思いませんでした。しかしながら、先生方はそのための単位を取らせて、次年度の学生達のためにも継続して続けていこうとされていました。私はここに、教員と学生の温度差を感じました。
- ・講義のレベル、専門性をより高めてほしいです。
- ・試験をもっと難しくしてほしいです。
- ・学外でのインターンシップを多く取り入れてほしいです。
- ・学生の教育（専門、教養）にもっと力を入れてほしいです。
- ・極端に数学・物理などの講義が少なすぎる。特に今日の生化学の分野で研究するにあたって、データ解析などを既存のソフトウェアやエクセルのみに頼っていることに問題があると思う。最低限のプログラミングの知識を身につける講義が必要だと思う。また、統計の講義内容が浅すぎる。
- ・プレゼンテーションの教育にもっと力を入れたほうが良いと思いました。私は宮大を卒業後、他大学の大学院に進学したのですが、進学先のプレゼンテーション教育の力の入れように驚きました。
- ・実験・実習で用いる実験器具を新しい物にしてほしい。数を増やしてほしい。
- ・実習などの経験型の講義や実習を多くしてほしいと思っていました。

#### ⑤獣医学科

- ・卒論にもっと力を入れて欲しい。

### (2) 雇用者（学部卒業生）

雇用者の個別の意見としては、質問 13 に数多くの意見が寄せられた。

#### ①食料生産科学科

- ・今後は学問だけでなく組織の中でコミュニケーション（人と人との関わり方）のあり方も教育の一環に取り入れて頂きたいと思います。
- ・一般的に言えることであるが、今まで組織を意識したことがないのでは？社会人として周囲に溶け込み、お互いを理解してこそ、今までの学問を実社会に活かすことができるのではないのでしょうか？
- ・日々の担当業務においては、学術的な専門性が問われませんので、学部の基礎知識を身につけているか否かについては、「どちらとも言えない」としました。
- ・N君については、仕事を担う上での基本的な資質・能力を備えていると評価しています。業務が宮崎大学農学部での専門的な知識及び技術を活かした分野でない為、評価が難しいですが業務を行う上での能力は優れていると思われまます。
- ・一年間という期間で、現状ではまだ身につけた知識・技術を問われることが少なく、評価は難しいと思われまます。一般論として、精神的・肉体的にタフで、意欲を持った人材の育成が肝

要かと考えます。

## ②生物環境科学科

- ・本土地改良区における職務は施設の維持管理・賦課金の徴収事務等を行っている為、本人が持っている生物環境科学科の知識を發揮する機会が無い為「どちらとも言えない」という回答になりました。意見としましては、専門知識外にもう少し一般常識（電話・接客の対応等）の教育を行って欲しい。
- ・大学における教育は、専門的な授業であると考えた場合、地方行政においては、ただ大学で学んだ知識が全て生かされるとは限らない。ただ地方行政においては、市民の求めるニーズ等にいかに対応できるかと、地方産業の活性化にいかに関与できるかが大きなポイントである。しかし、大学の教育は、学部・学科で異なっており、地方行政を目的として行っていないと思われるが、一番重要なのは本人の学んだ知識をいかに地方行政に応用できるかが大変重要であると思う。
- ・最近の学生さんがそうなのかもしれませんが、何事にも積極的に行動する事が不足がちだと思います。同期の高卒の人が、失敗を恐れず積極的に挑戦しているので、どうしても比べてしまいます。今後とも、よろしくお願い致します。
- ・当施設には、2名の貴大学卒業生が勤務しています。人格、業務に対する取り組みは満足いくもので、今後の成長を楽しみにしています。就職して1年も満たない人に求めるのは高望みかもしれませんが、フィールド調査や飼育下でのデータをまとめ、学会等で発表できるようなスタッフになっていただくことを望んでいます。
- ・頑張ってください。今後ともよろしくお願い致します。
- ・昨年の採用試験の際、辞退される人の中に当大学当学部の複数の方が事前連絡ナシという残念な出来事がありました。良識ある人なら、ご一報いただきたかったと思う次第です。
- ・当社は生物分析（分類）を主とする会社なので、形態分類の基本的な所をお教えいただけると助かります。

## ③地域農業システム学科

- ・当社の求める素直で正直であること、強い意志を持続できること、素質として充分であると感じています。今後とも、長い御縁をお願い致します。
- ・現場の農家で勉強する機会が体験できれば、新入社員として入社しても、より理解し取り組みます。
- ・学業とは異なる実社会の点を理解し、大変誠実に仕事に取り組んでいる。現段階では改善点はない。より発展されることを期待します。
- ・特筆することはない。現段階で、個人の能力が發揮できる環境になく、又、1年で判断できる事は無いと思われる。このアンケートも、3年後あたりで配布するのが望ましいのではないかと思います。
- ・大学での教育と当社の業務内容が異なるため、アンケートに十分に答えることができません。専門知識はもちろんですが、一般知識（常識）もこれからは必要になってくると思います。Kさんは性格がとても良く、一生懸命働いております。
- ・弊社は航空宇宙、自動車等の機械設計を業務としています。貴学工学部からの採用実績はあ

りますが、農学部からの応募で戸惑いもありましたが、技術者としての物作りに携わりたいとの強い希望もあり、又、大学としての基礎能力も充分ある事から採用しました。製図教育、材料力学等、本人にとって大変であったと思いますが、努力と人柄もあり、現在は自動車の解析を先輩の教えを受けながら勤務しています。「基礎力」を積み上げていただければ、本人次第で目標達成できると考えています。

- ・当社では、貴学部での教育内容が直接活かせる業務ではないので、参考になるか分かりませんが、よろしく願い致します。

#### ④応用生物科学科

- ・とても素晴らしい教育を受けてこられたと思います。理解も早く、しっかりとした考えも持っています。これからの時代に合わせて、より良い改善をしていってくれるものと期待されます。
- ・我々の職場は、試験研究機関であることから、宮大の卒業生を研究員あるいは非常勤職員として雇用する機会も多い。そのような場合には最も期待するのは即戦力として役に立つ基本的な分析技術である。今まで同様に、分析学実習教育をしっかり行っていただきますよう、よろしく願い致します。
- ・難題に進んで取り組む姿勢があります。学業で、多くの成功体験をさせてあげてください。
- ・誠に申し訳ありません。昨年採用しましたAについてのアンケート調査への回答であります。質問1~5につきましては、現担当業務においてあまり関連ない内容となっておりますので、回答ナシとさせていただきました事、深くお詫び申し上げます。本人につきまして、非常に努力しており、今後も十分に活躍される人材であると思っております。景気低迷が続く中で、新採用の採用状況も大変な時ではありますが、県内の国立大学として、当方でも期待している所ありますので、今後とも協力よろしく願い致します。

#### ⑤獣医学科

- ・社会に対し負っている責任への理解、社会が求めている要求に応える手法について不足しているように感じました。大動物の臨床、特に実習を充実して欲しい。
- ・社会が専門教育を受けた若人に求めるのは、基礎知識をもとに創意工夫をしながら実践できる力であろうと考えます。また、今の若人はコミュニケーション能力が乏しく、表現力に欠けている様に思われます。学内での能力と社会での能力は異なるものが要求されるため、在学中から自分が進むべき社会を肌で感じるような教育を望みます。
- ・優れた人材でした。獣医学専門分野の業績発表もされました。しかし残念ながら、県を退職され、別分野への道を選ばれました。
- ・卒業生の能力等には満足していますので、学生個々の能力を伸ばしてってください。
- ・宮崎大学農学部の卒業生に関して、不満な点は全くありません。
- ・今回入社した宮大卒業生は、とても優秀と感じています。一方で、そのような方でも1年目から小動物臨床を充分に行えるかと言えば、難しいものがあります。これは、宮大生だけに限らず、日本全体の獣医学教育が持つ問題点並びに改善点と思います。

### (3) 大学院修了生

修了生の個別の意見としては、質問 15 に数多くの意見が寄せられた。

#### ①生物生産科学専攻

大学院では専門分野での実験・研究に力を入れる事が必要と考えますが、1年目は特に専門外の講義等に時間を取られることが多かったです。また、その内容も幅広い分野の学生に対応するためか、概論的なものが多かったです。専門と深く関連のある分野の講義を受講し、単位を満たせるようカリキュラムが充実していると、なお良いと思います。

一つ一つが興味深い授業でした。

#### ②地域資源管理科学専攻

- ・文系の専攻について、学生間の討論がもっとほしい。なかなか面白いと感じにくいです。
- ・大学院に在学中の科目等履修の授業料は、無償にしてほしい。

#### ③森林草地環境科学専攻

- ・学生の問いかけに呼応する教員の方々の姿勢、反応。
- ・Lectures informations in English especially for the foreigner students.
- ・Text book in English more available in library.
- ・Specialization lecture must be given to improve skills.
- ・もっと就職や就職後に役立つ資格を取れるようなカリキュラムを組んでほしかったです。

#### ④水産科学専攻

修了者の個別の意見（質問 15）は、水産科学専攻はなし。

#### ⑤応用生物科学専攻

- ・進路指導の徹底。社会人（卒業生）に講師として、話をしてもらいたいと思います。
- ・英語で論文を書くときの方法を教える授業があれば良いなと思いました。
- ・特になし。自分がきちんと取り組みれば、十分社会で通用できているので。
- ・研究室によって、レベルに差がある。

### (4) 雇用者（大学院修了生）

雇用者の個別の意見としては、質問 13 に数多くの意見が寄せられた。

#### ①生物生産科学専攻

与えられたテーマについては、自ら積極的に取り組んでいます。時間を惜しんで関連文献を探したり、読んだりしています。今後は自ら課題を見つけ、計画・実行・検証できる能力を身につけてもらいたいと思います。「何を知りたいのか」「何を解決したいのか」を自ら考え、答えを出すまでのプロセスを自分で組み立てることの出来る人材の育成を期待しています。

農学研究科まで行ったのだから、こういう仕事に就かなければならない、という方が多いように感じますが、直接研究されてきた内容と違った職種であっても、学んできたことを活かせる

る場面はたくさんあることを教えてあげてほしいと思います。また、土地柄、あまり働く人のイメージがわきにくいのかもかもしれませんが、イメージできるような情報を提供する必要があるかと思いました。

弊社での仕事の内容が大学院で習得した専門知識やスキルを活かせる仕事かどうか疑問があります。会社としても本人の興味や適性などと合わせて、専門性を活かせる仕事をさせたいと努めていますが、大学院生を採用する場合にいつも迷うところです。

当面は、貴研究科で身につけられた専門知識を生かす機会はあまりないかもしれませんが、大学での基礎学力や、素養を身につけた人材を生かせないと、変化する経済環境の中で、当社が生き残ることはできません。弊社は、卸売市場というある意味で行政によって守られた業界にありましたが、今後は、畜産やその流通が如何にあるべきか自ら考え、変化に対応できる人材が求められます。（これと同じ内容のご意見がもう1件ありました）

## ②地域資源管理科学専攻

- ・ 自立的に行動する能力、心配り、使命感がほしい。若いのだから、もっと直向きに頑張る姿勢が大切である。

## ③森林草地環境科学専攻

個別意見なし

## ④水産科学専攻

- ・ 企業としては、技術的な能力に加え、協調性や自己表現能力、コミュニケーション能力も重要であると考えます。技術力と併せて、これらの能力の育成もお願いしたい。

## ⑤応用生物科学専攻

- ・ 今後もより良い人材育成をよろしくお願い致します。
- ・ 農学の基礎知識だけでなく、高度な専門的知識を身につけており、満足しております。これからの農学で必要なことは、研究をいかに活かせるか、どう雇用した企業のニーズに対応できるのか、ということもあると思います。農学とビジネスの融合モデルを構築する。そんな修了生を是非とも採用させていただきたいと思います。
- ・ 基礎学力が不足しています。問題点に対するアプローチの方法、検証の進め方、結果のまとめ方が慣れていないようです。私どもは、大学院卒業者に対して即戦力を期待しております。この場合、確かに知識も大事ですが、それ以上に「問題点の解決能力」はもっと大事です。どうか思考力のある人材を育ててください。



## 5. 学部・学科の傾向

以下に、学科別にアンケート集計結果の要約を示す。

### A. 食料生産科学科

#### (1) 卒業者用アンケートの集計結果の要約（有効回答者数：8名）

質問1から質問11までの回答の平均は、それぞれ「全く身についていない」が0.0%、「ほとんど身についていない」が14.8%、「どちらとも言えない」が27.8%、「身についた」が50.0%、「十分身についた」が8.0%であり、8割以上が肯定的な回答を選択する結果となった。よって質問12の、教育に対する総合評価について、回答者全員が「満足している」を選択していることや質問14「業務に生かされている講義や実習の有無」で75.0%が「あった」（5学科中1位）と回答していることは、それを反映しているものと思われる。

質問13の「就職や進路決定において、クラス担任あるいは指導教員から適切なアドバイスを受けましたか？」については、「ある程度受けた」と「十分受けた」を併せても52.5%に留まる結果となった。より適切なアドバイスができるように、クラス担任と指導教員との連携強化等が必要であると思われる。

#### (2) 雇用者用アンケートの集計結果の要約（有効回答者数：13名）

質問1から質問11をとおして、「身につけている」「十分身につけている」の割合は、学部平均とほぼ同じであった。しかし、質問3「食料生産科学に関する基礎知識」、質問4「学科の各関連科目の修得によって得られる専門知識」については、「身につけている」と「十分身につけている」ともに、学部平均より低い割合となった。よってこれらを改善する方策を探る必要があるものと思われる。

#### (3) 総括

本学科の教育は、卒業生が満足するものと思われる。引き続き高い満足度を維持できるような努力が望まれる。しかし、雇用者から基礎および専門知識について若干、低い評価が得られたことから、この点を改善することが今後の課題と考えられる。

### B. 生物環境科学科

#### (1) 卒業者用アンケートの集計結果の要約（有効回答者数：21名）

質問12の「宮崎大学農学部で受けた教育に対する総合評価」については、「満足している」および「十分満足している」がそれぞれ61.9%、19.0%であり、あわせて約80%が肯定的意見であった。同様の傾向として、質問1の「多面的に物事を考える能力」については「身についた」および「十分身についた」がそれぞれ61.9%、19.0%であり、あわせて約80%が肯定的意見であった。また、質問3の「農学に対する基礎知識が身についたか」、質問5の「データを正確に解析・考察し、かつ説明する能力」、質問6の「課題を探求し、組み立て、解決する能力」についても同様に80%以上が身についたと評価していた。一方、評価が大きく下がるのは、質問7の「実社会において経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する能力と判断力」と質問8の「社会の要求に対して様々な情報を収集・分析し、対応策を企画する能力」である。これら2項は、学生が実社会に出て、経済活動を営む中で役立つ実践的な知識と能力と言い換えることが出来るが、本アンケート対象者が就職後間もないことも影響していると考えられる。

また、実践的な知識に関する質問項目として質問 14 の「講義や実習の中で現在の業務に生かされていると思われるものがあるか」という問には「特になかった」の回答が 60%を超えている。以上のことをまとめると、課題探求やそれに必要な知識など、社会で活躍するための素地は出来ているものの、実務上すぐに役立つ実践的な知識について評価が低いといえる。しかしながら、卒業生の専門性と業務とのマッチングの影響が色濃く反映されている結果とも捉えられる。

特徴的な傾向を示す質問項が 2 つ見受けられる。まず、質問 9 の「日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力」について、「身についた」という解答の割合が 47.6%と低く、「身につけていない」という否定的な意見が 28.6%と高かった。さらに質問 13 の「就職や進路決定において、クラス担任あるいは指導教員から適切なアドバイス」であるが、「どちらともいえない」の回答が無く、「受けていない」の回答が、38.1%、「受けた」との回答が 61.9%と評価が分かれた。両質問項目は大人数の開講授業での対応が難しい内容であり、教員個人の創意工夫に依存するところが大きい。

その他の項目では、概ね肯定的な意見が多く（70%以上）、「まったく身につけていない」といった憂慮すべき解答も無かった。

### （2）雇用者用アンケートの集計結果の要約（有効回答者数：19 名）

質問 1-2（多面的思考に関する素養・科学に関する理解）について、「十分身につけている」「身につけている」とした回答はいずれも合わせて 58%であり、両項目の学部平均の 47%に比べ高い評価といえる。基礎・専門知識に関する質問 3-4 でも、それぞれ 69%、63%が「十分身につけている」「身につけている」として教育効果を認めており、学部全体の平均を超えている。しかしながら、ほとんど身につけていないとの回答が質問 2-4 において 10%存在し、例年多く寄せられるどちらともいえないという回答が少なかった。これらの点から雇用者の評価がより直接的なものになっていることがうかがえる。

能力育成に関する質問項目 5-11 についても、質問 9 を除き、同様の比較的高い評価がなされており、「十分身につけている」、「身につけている」の回答合計が概ね過半数を超え、それ以外は「どちらとも言えない」と回答する傾向であった。質問 9 の「コミュニケーション能力」に関しては、「身につけている」を含む肯定的評価が 42%であり、全質問項目中最も低く、学部全体の平均値より 10%程度低い評価であった。「ほとんど身につけていない」との否定的評価は、設問 6「専門的な知識および技術を駆使して、課題を探求し、組み立て、解決する能力」および設問 11「与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力」で各 2 件の回答、設問 7「実社会において経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する能力と判断力」および設問 8「社会の要求に対して様々な情報を収集・分析し、対応策を企画する能力」で各 1 件の回答があった。これらの否定的回答が得られた質問項目は卒業生によるものと傾向が一致している。

質問 12 の総合評価においては、63%が肯定的回答を寄せている。「十分満足している」との回答は 5%（1 件）にとどまったものの、「満足していない」との否定的評価はゼロであった。従って、概ね高評価であると判断できる。

### （3）総括

学科としての傾向を集約するならば、以下ようになる。1) 卒業生・雇用者共に、大半が教育効果を認めている。2) 卒業生・雇用者共に回答結果が否定的だった項目はコミュニケー

ション能力、ならびに実務上必要な実践的知識と能力である。これは雇用者からの個別意見中に一般常識の欠如に対する意見があることから、早急に対応する必要があるだろう。

### C. 地域農業システム学科

#### (1) 学部卒業者用アンケートの集計結果の要約（有効回答者数：6名）

質問 1-4 の多面的思考・責任感・農学に関する知識について、回答者の結果を平均すると「ほとんど身についていない」4.2%、「どちらとも言えない」12.5%、「身についた」62.5%、「十分身についた」20.8%であり、肯定的な回答が多い傾向がみられた。昨年の結果「身についた」45%、「十分身についた」0%よりも肯定的な回答割合が増加したことから学科教育改善の成果がみられる。

質問 5-11 の能力育成や実社会での対応能力や企画能力に関する能力について、回答者の結果を平均すると「全く身についていない」4.8%、「ほとんど身についていない」14.3%、「どちらとも言えない」14.3%、「身についた」45.2%、「十分身についた」21.4%であり、肯定的な回答は 66.6%であった。昨年は肯定的な回答 30%、否定的な回答 55%であったため、大幅な改善効果がみられた。特に、質問 10（自主的、継続的に学習できる能力）では「身についた」33.3%、「十分身についた」50.0%と 83.3%が肯定的な結果であった。しかし、質問 7（実社会において経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する能力と判断力）では「全く身についていない」33.3%と否定的な回答が多く、実社会と大学での教育内容のつながりについて理解を深める教育に力を入れる必要がある。

質問 12 の総合評価は、「満足している」20.0%、「十分満足している」33.3%と肯定的な回答が多く、「十分満足している」の割合は農学部 5 学科の中で最も高かった。また、質問 1-11 のうち 6 つの質問で「十分満足している」の回答割合が 5 学科中 1 位であった。

質問 13（教員の進路指導）については、80%以上の学生が「ある程度受けた」「十分受けている」と回答しており、5 学科中 1 位であった。

質問 14（業務に生かされている講義や実習の有無）については、「あった」の回答が 66.7%と学部平均 51.7%に比べて高かった。質問 12-14 の結果から、教育方法について改善の余地はみられるが、教員の指導や教育内容については一定の評価が得られていると考えられる。

#### (2) 学部卒業生雇用者用アンケートの集計結果の要約（有効回答者数：14名）

全質問において、肯定的な回答である「身につけている」と「十分身につけている」の占める割合は学部全体の平均とほぼ同じであり、特に大きな問題はなく雇用者の評価は高い。ただし、昨年に比べ「身につけている」と「十分身につけている」の割合が低く、特に基礎・専門知識に関する質問 1-4、6 おいて「どちらとも言えない」の割合が高い傾向がみられた。

#### (3) 総括

まず、本アンケートの有効回答者数は学部卒業者用アンケートが 6 名、学部卒業生雇用者用アンケートが 14 名と回答率が低く、アンケートの回収を確実にを行う必要がある。学部卒業者の満足度は前年よりも高く、学科教育における改善の成果がみられる。また、雇用者からの卒業生の評価はポジティブな回答が多く、評価は高いと考えられる。ネガティブな評価からは自学自習能力や問題解決能力を持った学生の育成が望まれており、課題解決型の教育を強化することが今後の課題と考えられる。

## D. 応用生物科学科

### (1) 卒業者用アンケートの集計結果の要約（有効回答者数：15名）

質問1から質問12においては、67～93%の卒業生が「十分身についた」または「身についた」と回答しており、不満足と感じている割合は0%から20%であった。卒業生からは非常に良好な評価を受けているといえる。

質問13の「就職や進路決定において、クラス担任あるいは指導教員から適切なアドバイスを受けましたか？」については、満足と感じている回答が47%であったのに対して、満足に感じているといえない回答が40%であった。就職や進路に関する情報提供の徹底とともに、学生のニーズに応じたアドバイスができるようにクラス担任と指導教員が連携して取り組む必要があると考えられた。

### (2) 雇用者用アンケートの集計結果の要約（有効回答者数：11名）

質問1から質問5までは無記入の回答があり、これらの質問事項は、雇用者の方にとって、場合によっては回答が困難であるようだった。質問1から質問5までは分母に無記入回答を含んだ状態のままの解析であるが、質問1から質問11において、質問2と質問4を除き、50%から100%が「十分身につけている」または「身につけている」と評価しており、雇用者から高い評価を受けているといえるだろう。質問2の「科学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および科学技術に携わる専門家が社会に対して負っている責任に関する理解」ならびに質問4の「食料生産科学、生物環境科学、地域農業システム学、応用生物科学、獣医学の各関連科目の修得によって得られる専門知識」については「無記入」と「どちらともいえない」が合わせて54.6%であり、不満足な回答は質問2では0%、質問4でも10%未満であった。

質問12の「卒業生が宮崎大学農学部で受けた教育に対する総合評価」に関して、「満足している」、「十分満足している」の割合は80%を超えており、全体として雇用者から高い評価を受けているものと判断できる。

### (3) 総括

質問事項によっては雇用者が適切に回答できなかったケースがあると考えられたが、卒業生からも雇用者からも概ね良好な評価を受けていると考えられる。

## E. 獣医学科

### (1) 卒業者用アンケートの集計結果の要約（有効回答者数1名）

質問1-11のうち、「身についた」、「十分身についた」があるのは、質問5、10、11のみであった。「ほとんど身につけていない」が多く見られた。質問13は「指導を全く受けていない」、質問14は「特になし」答えている。質問15は「どちらともいえない」と答えている。

### (2) 雇用者用アンケートの集計結果の要約（有効回答者数11名）

質問3「身につけている」、「十分身につけている」で100%を占めている。質問4、10でも両者が90%をしめている。質問1は「どちらともいえない」が45.5%と高い値を示している。質問6は「どちらともいえない」が38.4%と比較的高いが「十分身につけている」が45.5%と他学科より群を抜いている。質問2、4、7-11で10%に「ほとんど身につけていない」が見られた。

### (3) 総括

卒業者用アンケートは回答者数が1名で、参考になるとはいえないが「ほとんど身につけていない」が多く見られ、在学中の学業が役に立っていない、就職指導も指導教員のアドバイスも

受けていない。

雇用者側の評価は全体的に高く、満足する結果である。特に「十分身につけている」の値が他学科よりはるかに多い割合を占めている。ほとんどの質問で「ほとんど身につけていない」という回答が1割程度見られたが、これは特定の同一人物に対する評価と考えられる。

## 6. 大学院・専攻の傾向

### A. 生物生産科学専攻

#### (1) 修士課程修了者アンケートの集計結果の要約（有効回答者数：3名）

質問1から質問11までのうち否定的な意見はほとんど見られず、質問12においても回答者の66.7%が「満足している」や「十分満足している」を選択していることから、当専攻の大学院教育は高く評価されているものと思われる。しかし質問13では33.3%が就職指導をほとんど受けず、残り66.7%が「十分受けた」と回答している。指導教員によって就職指導に対する取り組みに差異があるためと思われる、今後、クラス担任との連携強化が望まれる。

#### (2) 雇用者用アンケートの集計結果の要約（有効回答者数：8名）

質問1から質問11においては、質問6以外は「身につけている」「十分身につけている」を選択しており、また質問12の総合評価においても「満足している」と「十分満足している」の割合を併せると75.0%に相当し、当専攻の教育が雇用者から高く評価されていると思われる。また質問6「高度な専門的な知識および技術を駆使して、課題を探求し、組み立て、解決する能力を身につけている」については、「どちらとも言えない」が62.5%を占める結果となった。これは配属先の就業内容に必ずしも「高度な専門知識や技術」が求められない場合もあるためと考えられる。

#### (3) 総括

生物生産科学専攻の教育は、修了生や雇用者から及第点を頂いているものと考えられる。今後も努力を重ねていきたいものである。また就職指導については、クラス担任など就職担当者や指導教員との連携強化が望まれる。

### B. 地域資源管理科学専攻

#### (1) 修士課程修了者アンケートの集計結果の要約（有効回答者数：2名）

アンケート結果には否定的な回答は1つもなく、特に問題となる点は見当たらなかった。

#### (2) 雇用者用アンケートの集計結果の要約（有効回答者数：2名）

アンケート結果には否定的な回答は1つもなく、特に問題となる点は見当たらなかった。

#### (3) 総括

特に問題となる点は見当たらなかった。概ね雇用者からの評価は高いと考えられるため、今後も現状の大学院教育を推進することが望まれる。

### C. 森林草地環境科学専攻

#### (1) 修了者用アンケートの集計結果の要約（有効回答者数：5名）

回答者数が5名であるため参考程度であるが、各質問項目において否定的な回答が多く寄せられた。まず、質問1の「多面的に物事を考える能力」について、2名が「ほとんど身につけていない」と回答した。また、質問4の「所属した講座以外の関連科目の修得によって得られる専門的知識」についても「ほとんど身につけていない」の回答が2件寄せられた。また、質問9の「コミュニケーション能力」、質問10の「自主的、継続的に学習できる能力」について、それぞれ1名が「ほとんど身につけていない」と回答した。さらに、質問12の「宮崎大学農学研究科で受けた教育に対する総合評価」では、1名が「ほとんど満足していない」と回答し、「満足

している」の回答が3名である一方で、「十分満足している」の回答はなかった。履修モデルに関する質問項では、質問1の「履修モデルに沿って授業科目を履修したか」については、全員が「履修した」との解答であるのに対して、質問2の「履修モデルが修士論文作成や就職に役立ったか」については「ほとんど役に立たなかった」が1名、「どちらともいえない」が2名であり、肯定的意見が半数を割り込んだ。履修モデルの有効に機能させるためには、再度議論が必要であろう。質問14の「専攻のカリキュラムが現在の業務に生かされていると思われるものはあるか」の質問に対しては、4名が「特になかった」と回答し、「あった」と回答したのは1名であった。質問13の「就職や進路決定において、クラス担任あるいは指導教員から適切なアドバイスを受けたか」の項目で5名中3名（60%）が「ほとんど受けていない」と回答しており、これは他専攻と比べてもきわめて高い。さらに質問15の「宮崎大学農学研究科での教育について今後改善すべき点」について「もっと就職や就職後に役立つ資格を取れるようなカリキュラムを組んでほしかったです」との意見が寄せられたことから考えても、大学院教育の意義と目標に対する認識に、教員サイドと隔たりがあるのではないかと推測できる。

### （2）雇用者用アンケートの集計結果の要約（有効回答者数：3名）

大学院教育における雇用者の回答結果は全体的におおむね良好な結果であった。各専攻の専門知識の習得を問う項目については、いずれも中以上の評価であり、「実験または調査を計画・遂行し、データを正確に解析・考察し、かつ説明する能力」については特に良好な結果であった。否定的な回答が寄せられたのは、質問8の「社会の要求に対して様々な情報を収集・分析し、対応策を企画する能力」と質問9の「日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力」であり、いずれも「ほとんど身につけていない」の回答が1件寄せられた。さらに質問12の「修了生が宮崎大学大学院農学研究科で受けた教育に対する総合評価」において「どちらとも言えない」の回答が存在することは必ずしも楽観的に受け止めることは出来ない。以上の結果から推測されることは、大学院教育を修了し、社会に出てから必要なコミュニケーション能力が不足していること、大学院教育において身に着けた専門知識を、社会活動の中で使用、評価する場が少ないことが考えられ、今後の大学院教育と雇用先のマッチングについても教育指導する必要があると考えられた。

### （3）総括

今回のアンケート結果では比較的「どちらとも言えない」の回答が少なく、修了者によるアンケート結果と雇用者によるアンケート結果で評価が分かれた点が特徴的だった。有効回答数が少ないことから、単純に判断することは困難であるが、総じて、専門知識に対する評価は高いものの、実践的な知識と能力で低い評価となった。「コミュニケーション能力」については、本専攻生が多く所属していた生物環境科学科のアンケート結果と同様に評価が低い傾向にあった。

## D. 水産科学専攻

### （1）修了生用アンケートの集計結果の要約（有効回答者数：1名）

回答は1件のみであった。質問1-11の自己評価項目のほとんどについて「身についた」、「どちらとも言えない」と答えており、「全く、あるいは、ほとんど身につけていない」という否定的な回答は得られていない。質問12（教育に対する総合評価）と質問13（教員の進路指導）

に関する回答では、「どちらとも言えない」と中立的な見解を示しているが、質問 14（現在の業務に生かされている講義や実習の有無）については、生かされる内容があったと答えている。質問 15（教育について今後改善すべき点）については、無記入であった。

### （2）雇用者用アンケートの集計結果の要約（有効回答者数：2名）

回答は2件のみで、質問 1-11 の評価項目のすべてにおいて、「十分身につけている」または「身につけている」という回答を得た。質問 12 の総合評価についても、「十分満足している、または、満足している」との回答を得ている。質問 13（教育について今後改善すべき点）では、技術的な能力の高さを評価している一方で、協調性や自己表現能力、コミュニケーション力に対する育成を求める趣旨の意見があった。

### （3）総括

専攻修了者ならびに雇用者からの回答数は、それぞれ1件と2件であり、回答率は極めて低い。従って、集計結果の詳細について考察することは妥当ではないが、少数の集計からは、概ね合格水準の評価であると考えてよいであろう。

## E. 応用生物科学専攻

### （1）修了者用アンケートの集計結果の要約（有効回答者数：8名）

質問 1 から質問 1 2 において、50%から100%が「十分身につけている」または「身につけている」と評価しており、修了生から高い評価を受けているといえる。

質問 1 3 の「就職や進路決定において、クラス担任あるいは指導教員から適切なアドバイスを受けましたか？」についても満足に感じている回答が62.5%であった。今後も修士学生に対して適切な就職情報を提供するとともに、ニーズに応じたアドバイスをできるように取り組みたい。

### （2）雇用者用アンケートの集計結果の要約（有効回答者数：5名）

質問 1 から質問 1 2 においては、質問 6, 8, 9 を除き、60%から80%の「十分身につけている」または「身につけている」と回答しており、これらの項目に関しては雇用者からも高く評価されているものと考えられる。質問 6 の「高度な専門的な知識および技術を駆使して、課題を探究し、組み立て、解決する能力」、質問 8 の「社会の要求に対して様々な情報を収集・分析し、対応策を企画する能力」、質問 9 の「日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力」については「十分身につけている」または「身につけている」という回答が今回の調査では40%に留まっているので、セミナーや特別研究等において、これらの能力を涵養させるようにさらに努力する必要があると考えられた。

### （3）総括

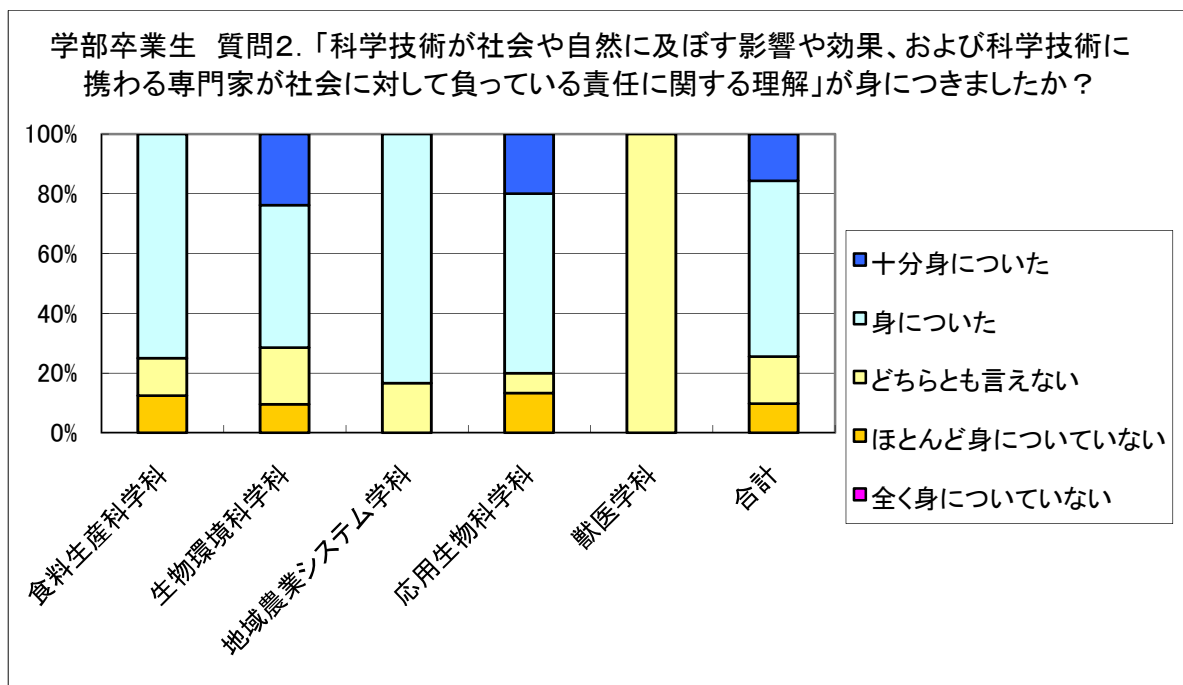
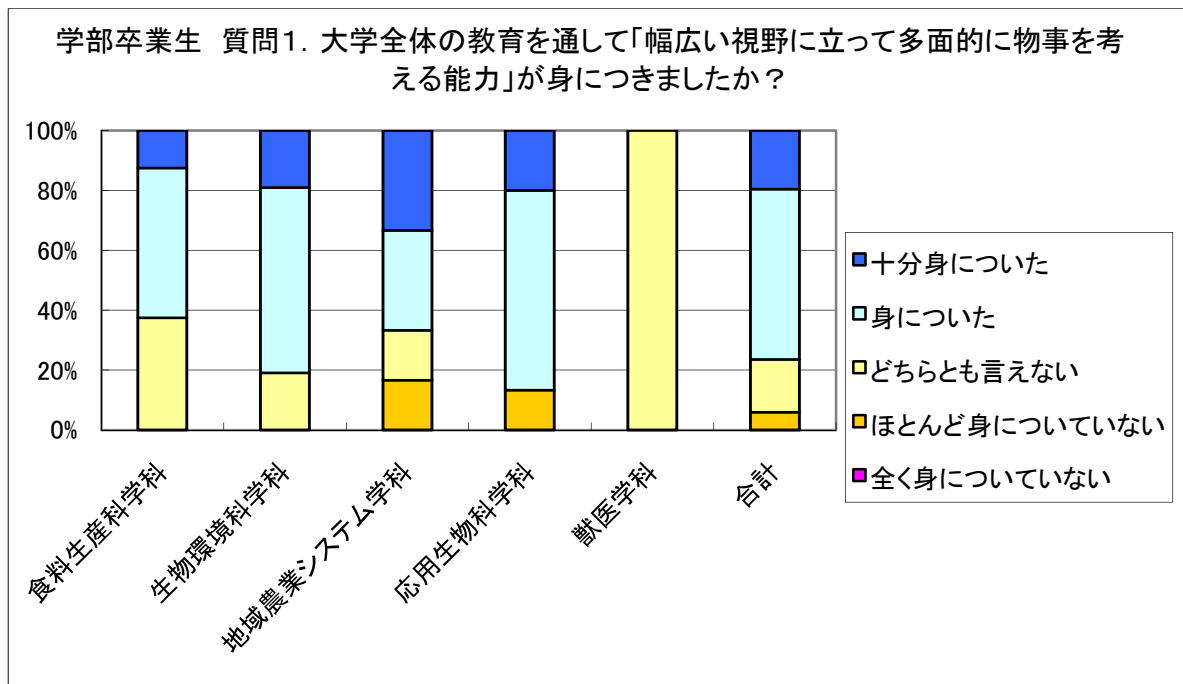
応用生物科学専攻の教育は修了生や雇用者から概ね良好な評価を得ているといえるであろう。また、雇用者の満足度がやや低かった質問 6、質問 8、質問 9 についても修士課程の各種のセミナーや特別研究等を通して、修士学生の能力を育むようにさらに努力したい。



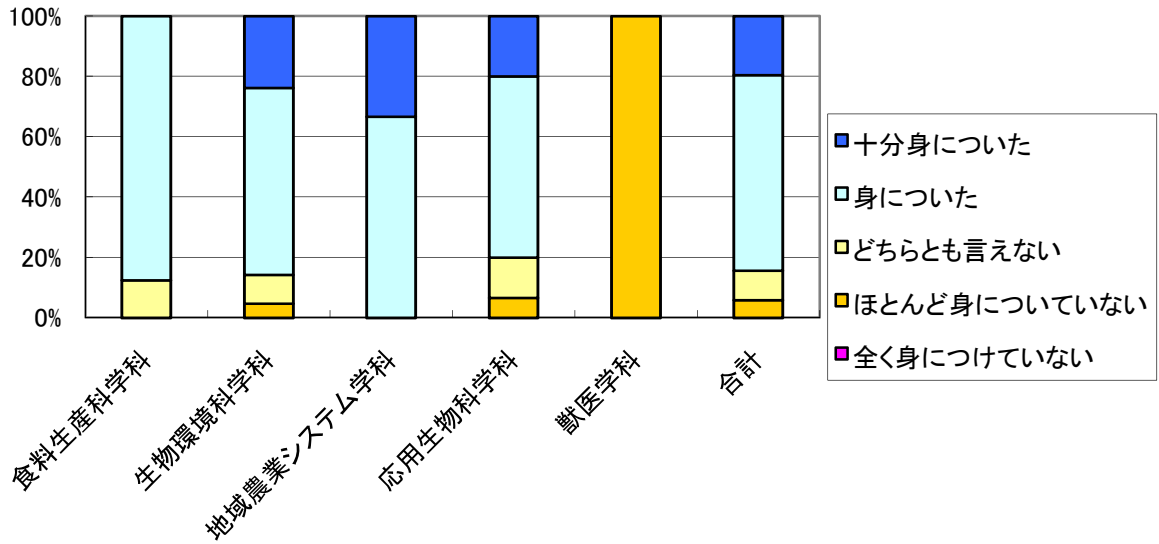
付図・附表

- (1) 卒業生アンケート集計結果（学部：学科別）
- (2) 修了生アンケート集計結果（大学院：専攻別）
- (3) 雇用者アンケート集計結果（学部：学科別）
- (4) 雇用者アンケート集計結果（大学院：専攻別）

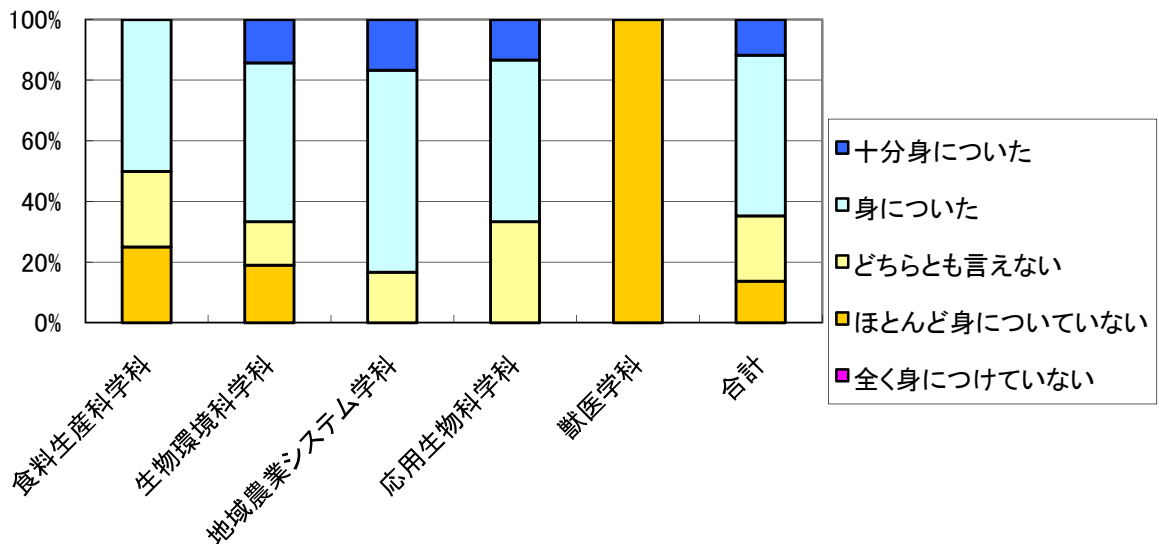
(1) 卒業生アンケート集計結果 (学部：学科別)



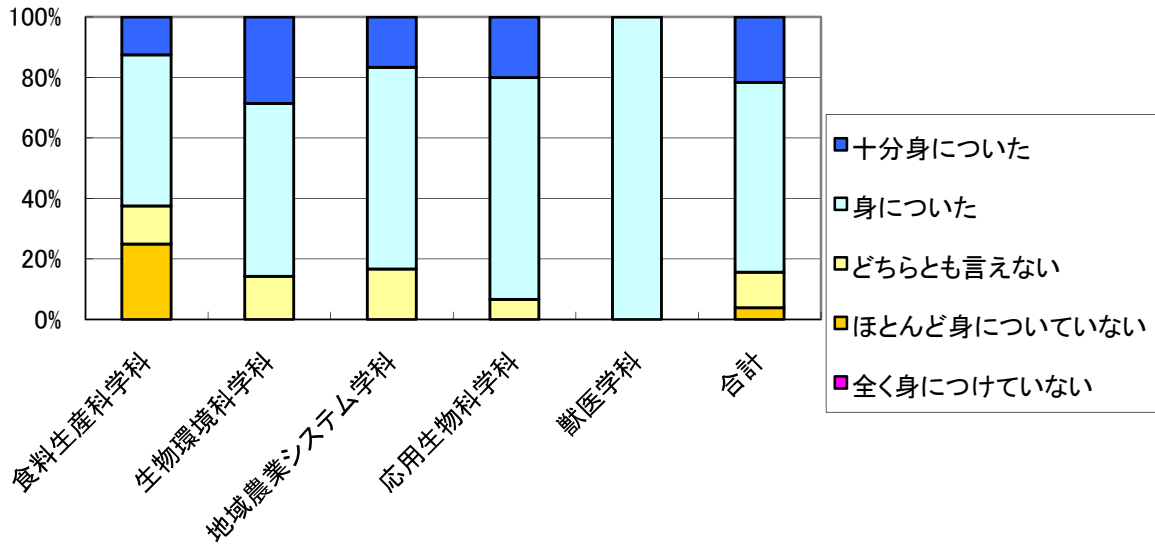
学部卒業生 質問3. 広く「農学」に関する「基礎知識」が身につきましたか？



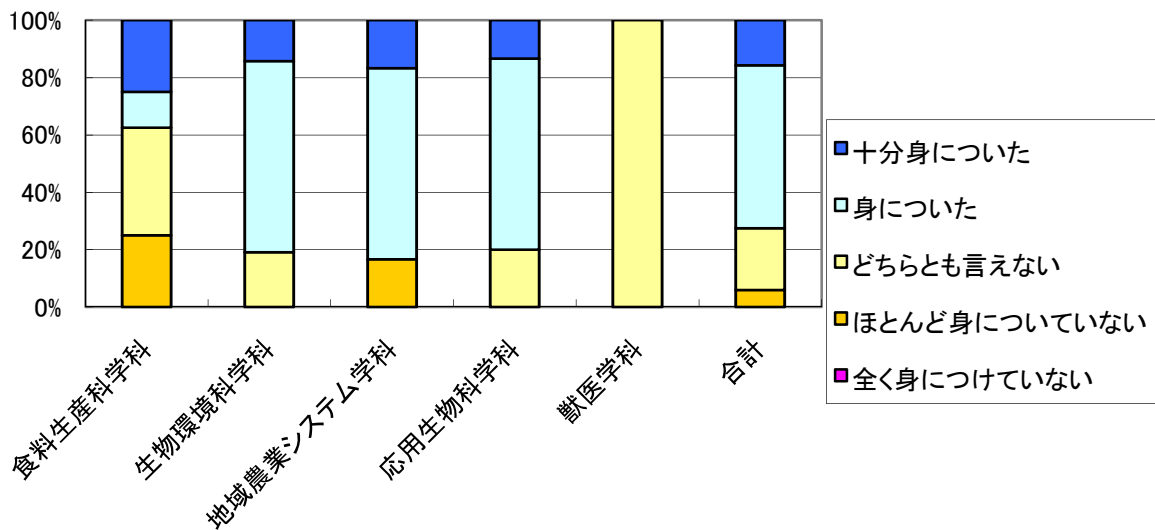
学部卒業生 質問4. 所属した学科以外の関連科目の修得によって得られる「専門的知識」が身につきましたか？



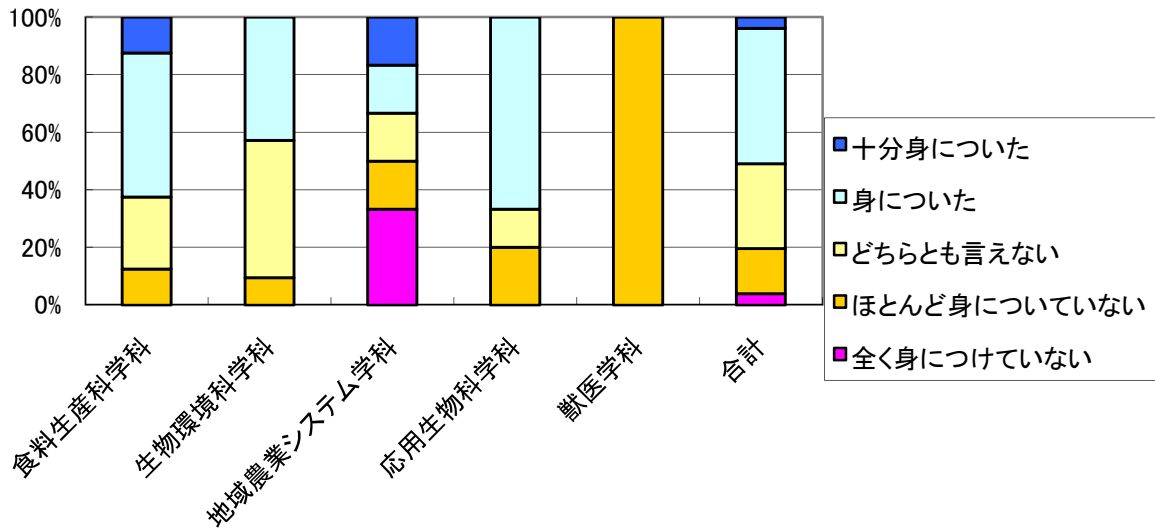
学部卒業生 質問5.「実験または調査を計画・遂行し、データを正確に解析・考察し、かつ説明する能力」が身につきましたか？



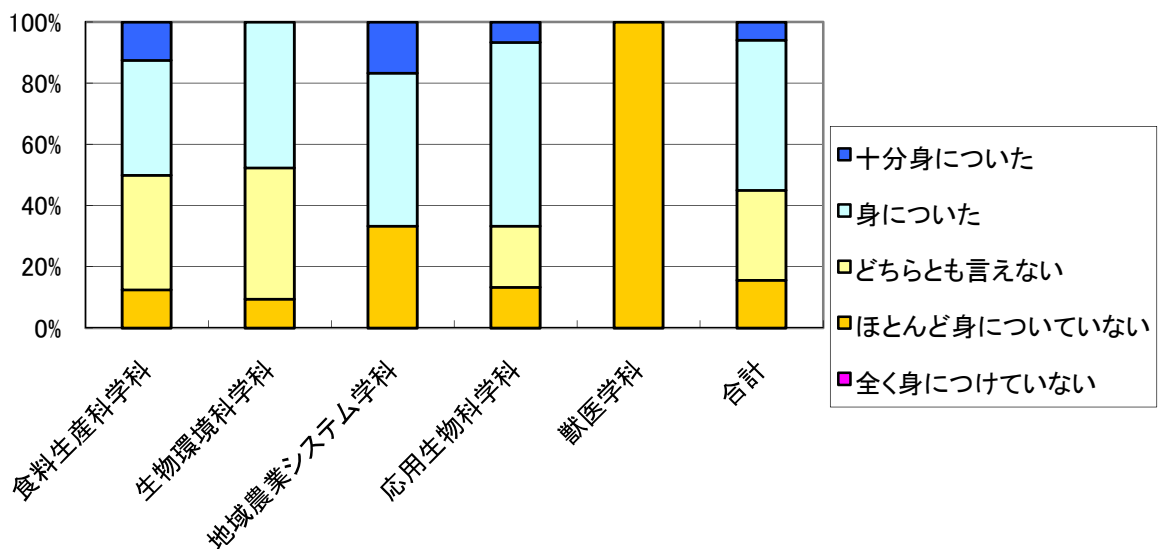
学部卒業生 質問6.「専門的な知識および技術を駆使して、課題を探求し、組み立て、解決する能力」が身につきましたか？



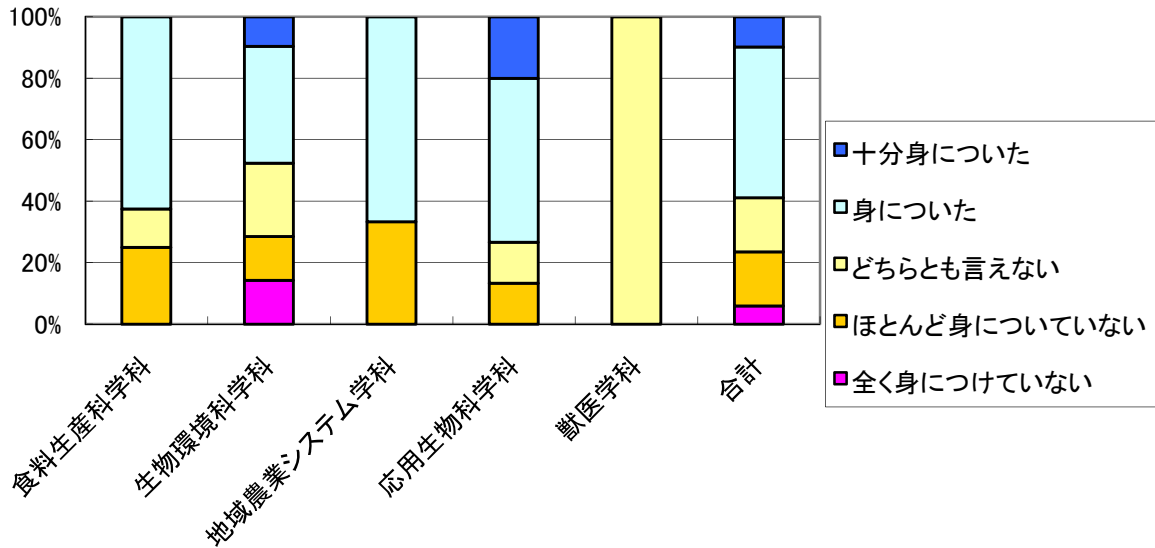
学部卒業生 質問7.「実社会において経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する能力と判断力」が身につきましたか？



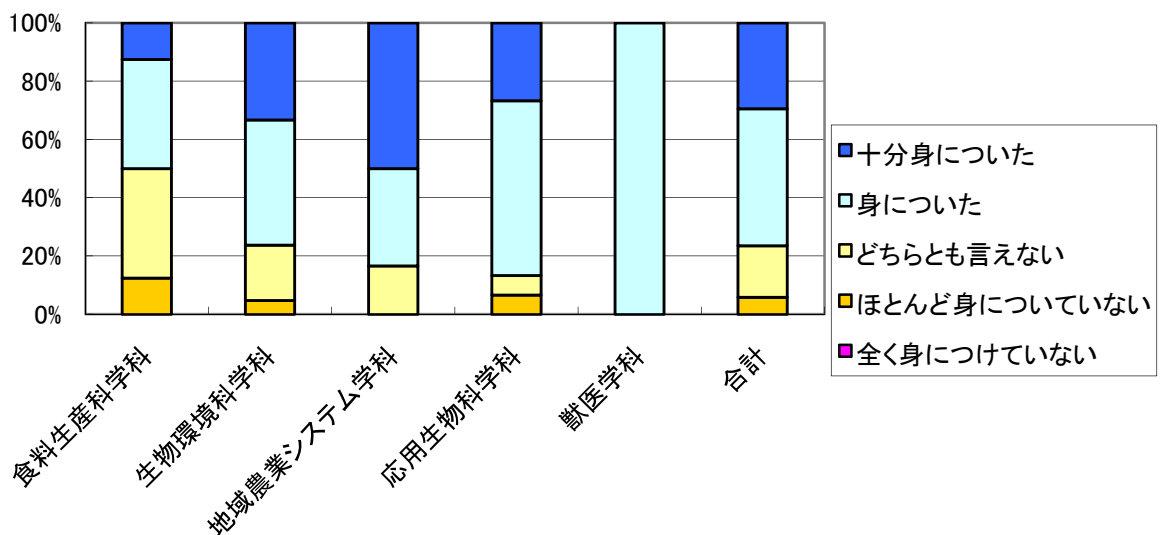
学部卒業生 質問8.「社会の要求に対して様々な情報を収集・分析し、対応策を企画する能力」が身に付きましたか？



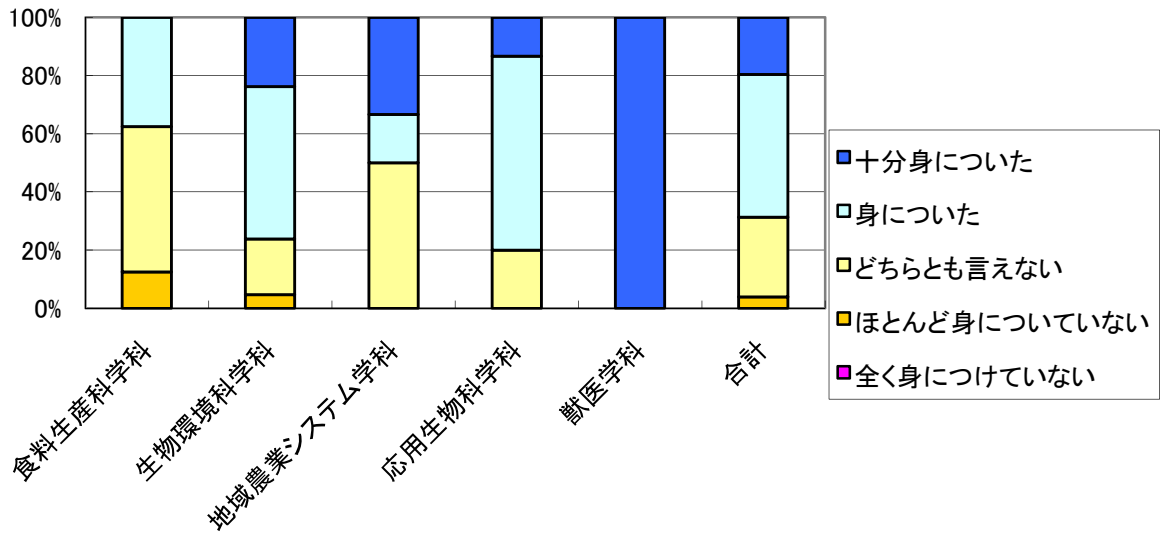
学部卒業生 質問9.「日本語による論理的な記述力, 口頭発表力, 討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力」が身につきましたか？



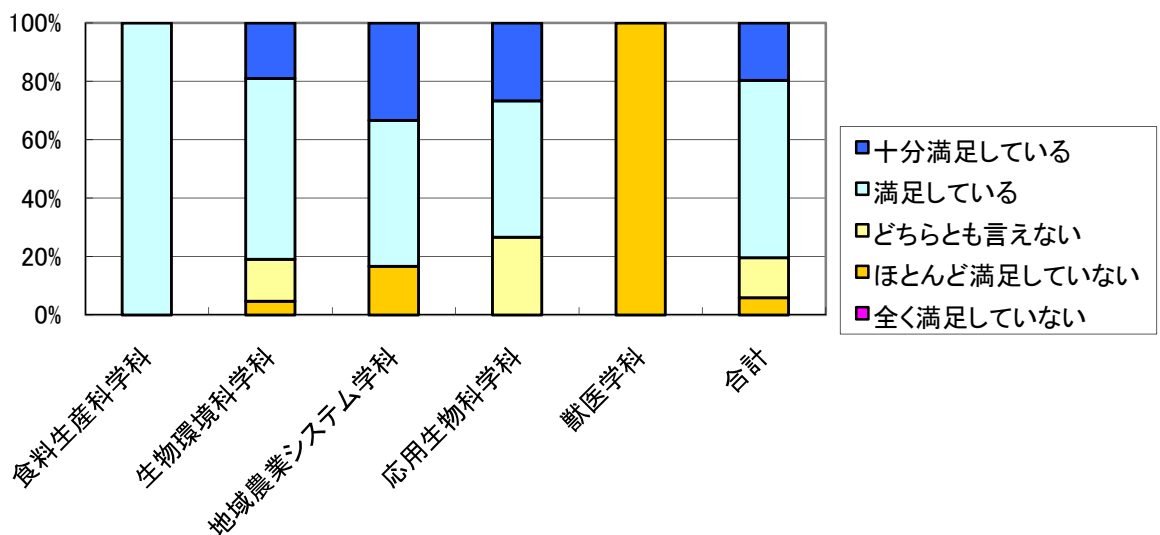
学部卒業生 質問10.「自主的、継続的に学習できる能力」が身につきましたか？



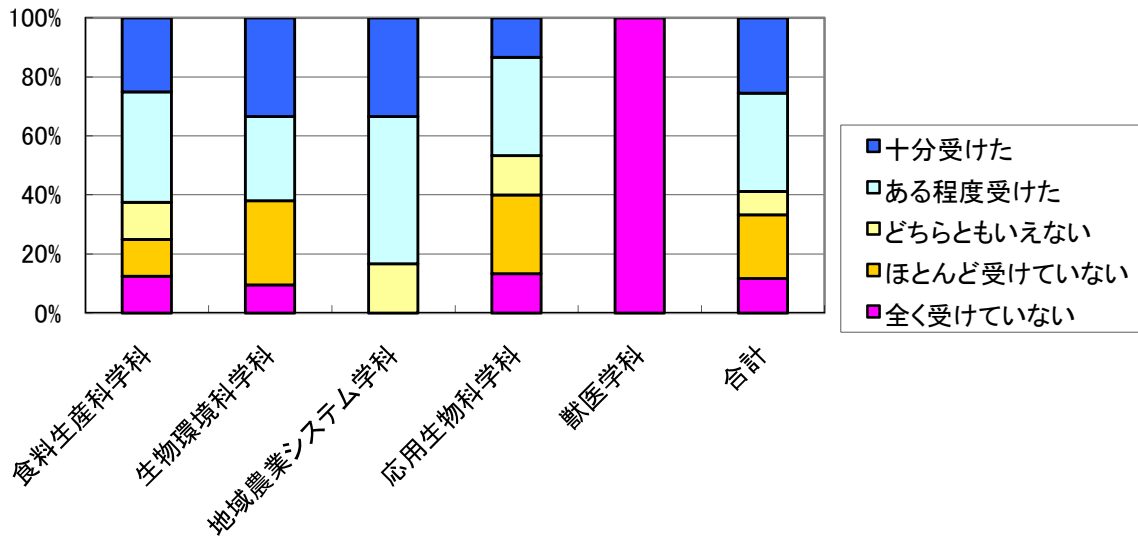
学部卒業生 質問11. 「与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力」が身につきましたか？



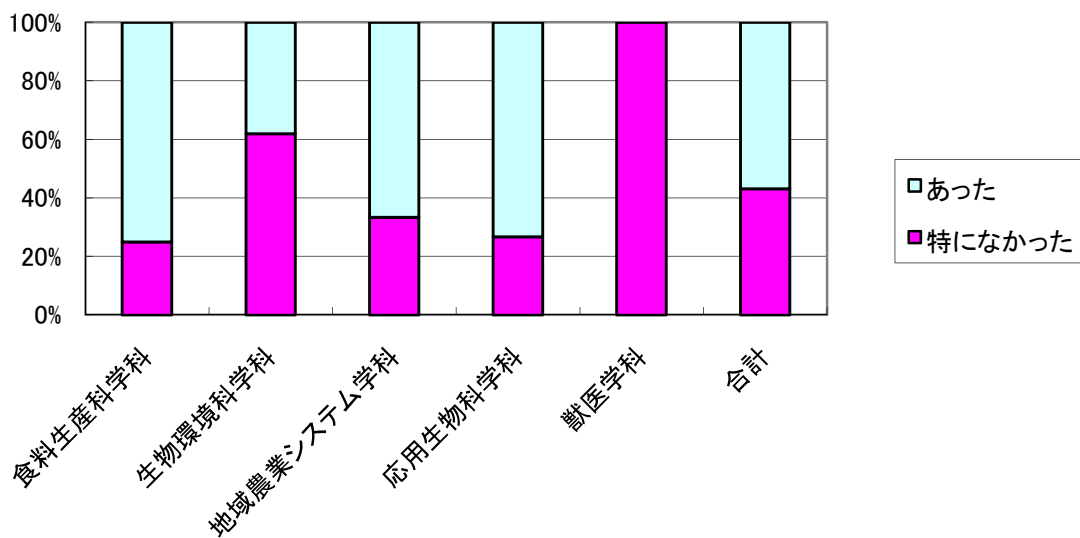
学部卒業生 質問12. 宮崎大学農学部で受けた教育に対する総合評価を次の5つの中からお選びください。



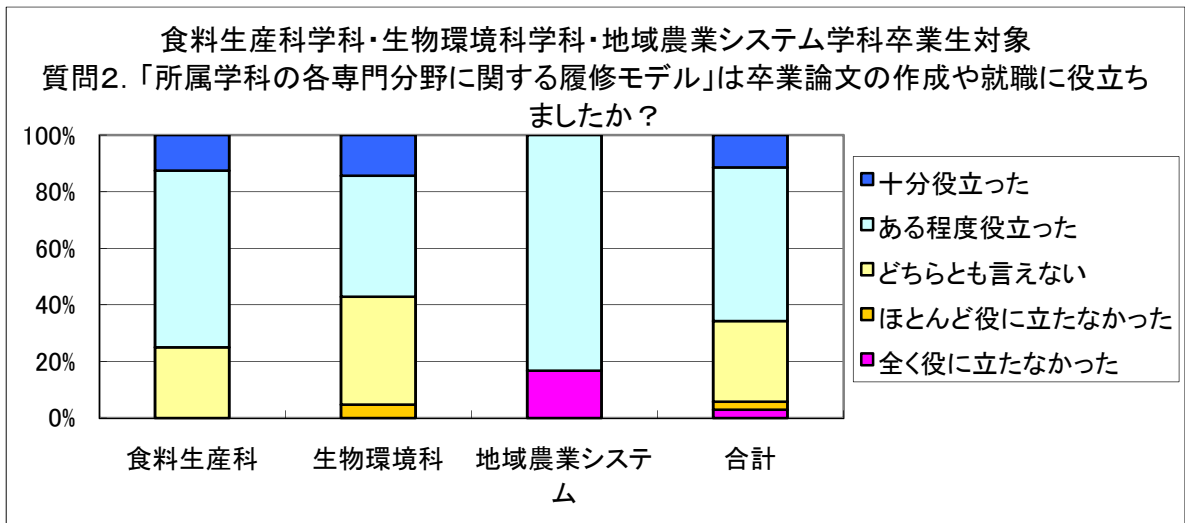
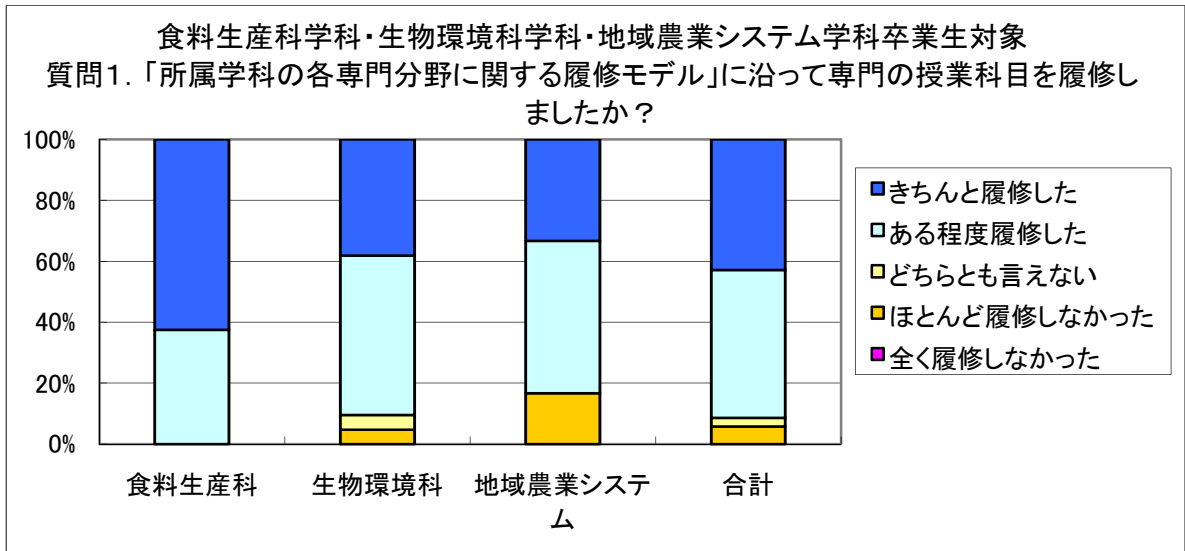
学部卒業生 質問13. 就職や進路決定において、クラス担任あるいは指導教員から適切なアドバイスを受けましたか？



学部卒業生 質問14. 宮崎大学農学部及び各学科で受けた講義や実習の中で現在の業務に生かされていると思われるものがありましたか？

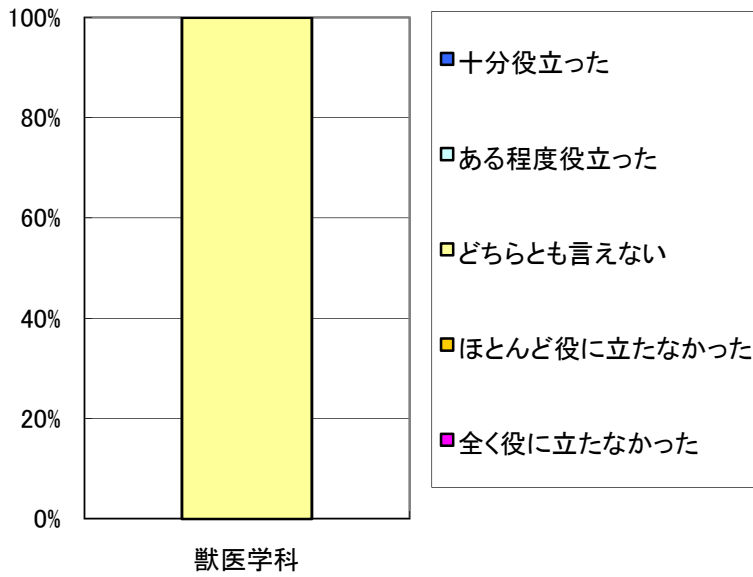




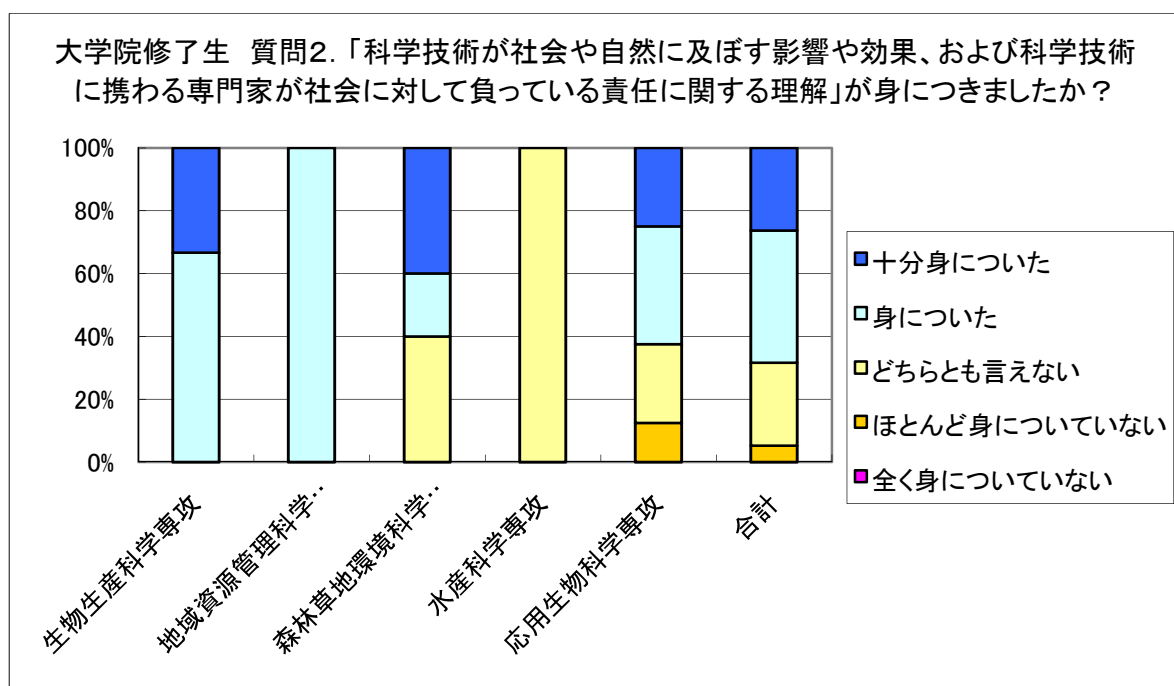
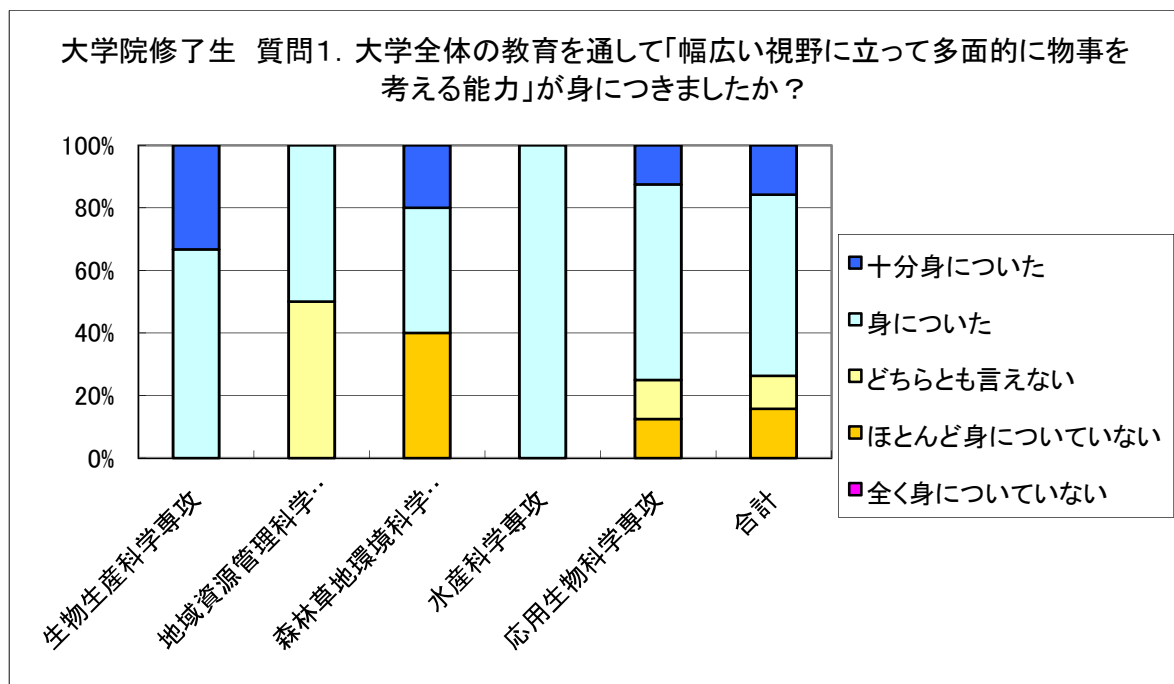


獣医学科卒業生対象

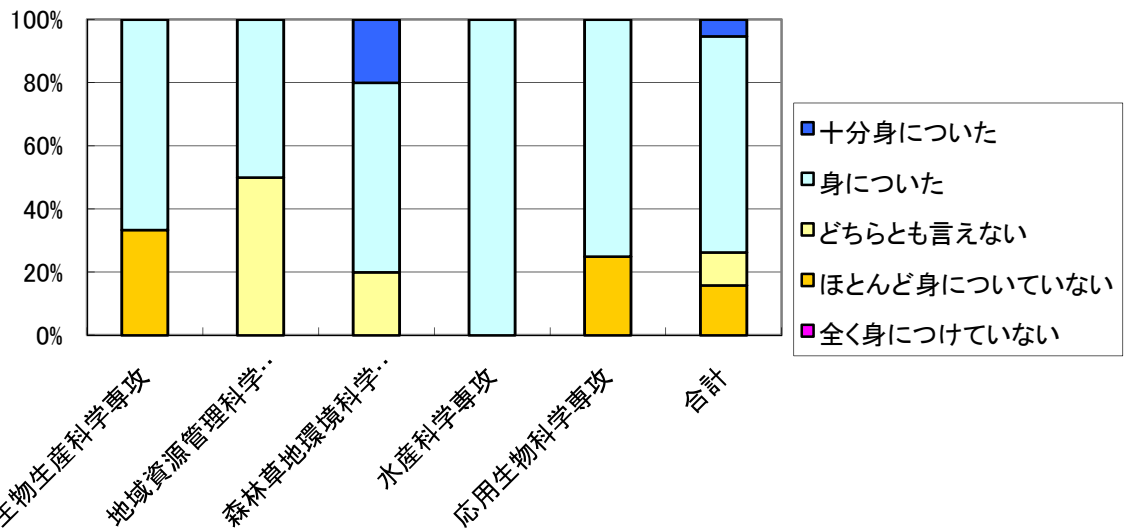
質問1. 獣医学科における教育カリキュラム(講座専修実験、卒業論文を含む)は「獣医師国家試験」の受験に役立ちましたか？



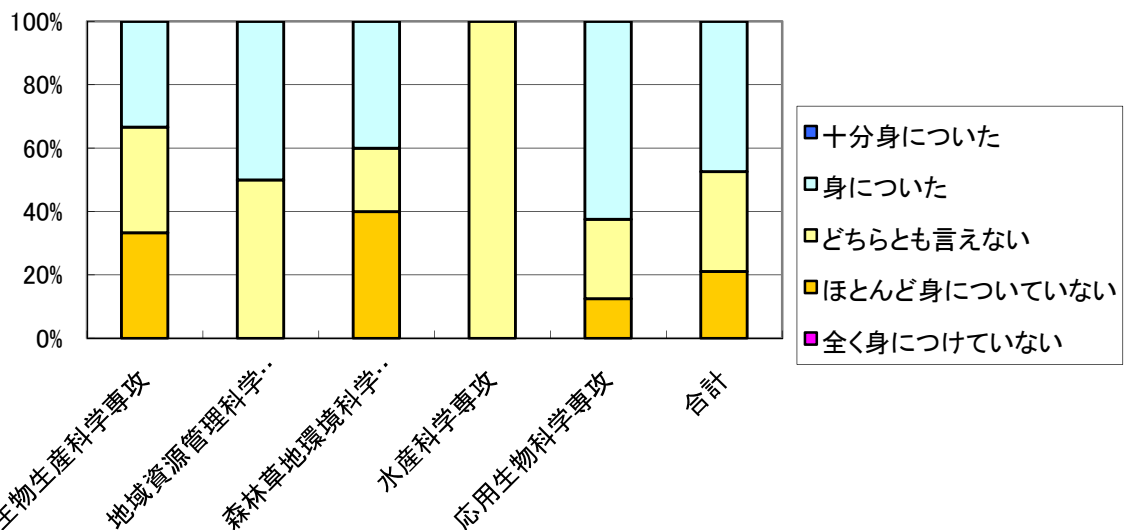
(2) 修了生アンケート集計結果（大学院：専攻別）



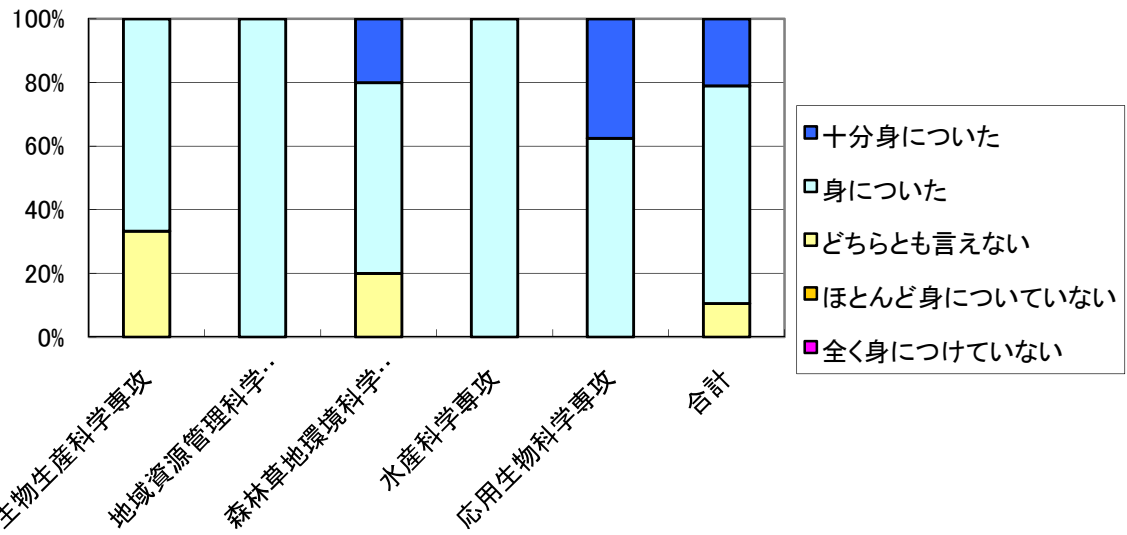
大学院修了生 質問3. 広く「農学」に関する「基礎知識」が身につきましたか？



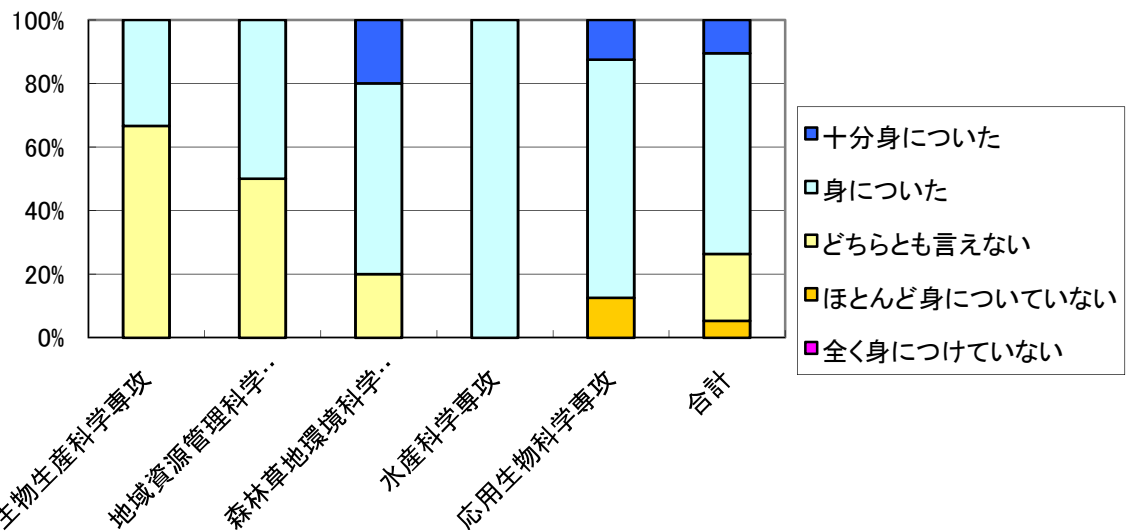
大学院修了生 質問4. 所属した講座以外の関連科目の修得によって得られる「専門的知識」が身につきましたか？



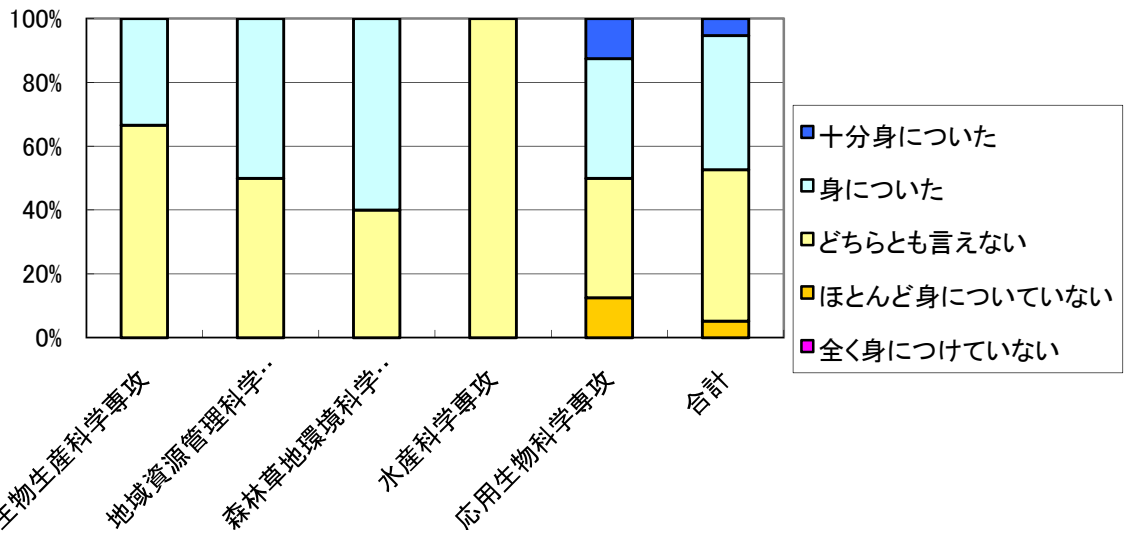
大学院修了生 質問5.「実験または調査を計画・遂行し、データを正確に解析・考察し、かつ説明する能力」が身につきましたか？



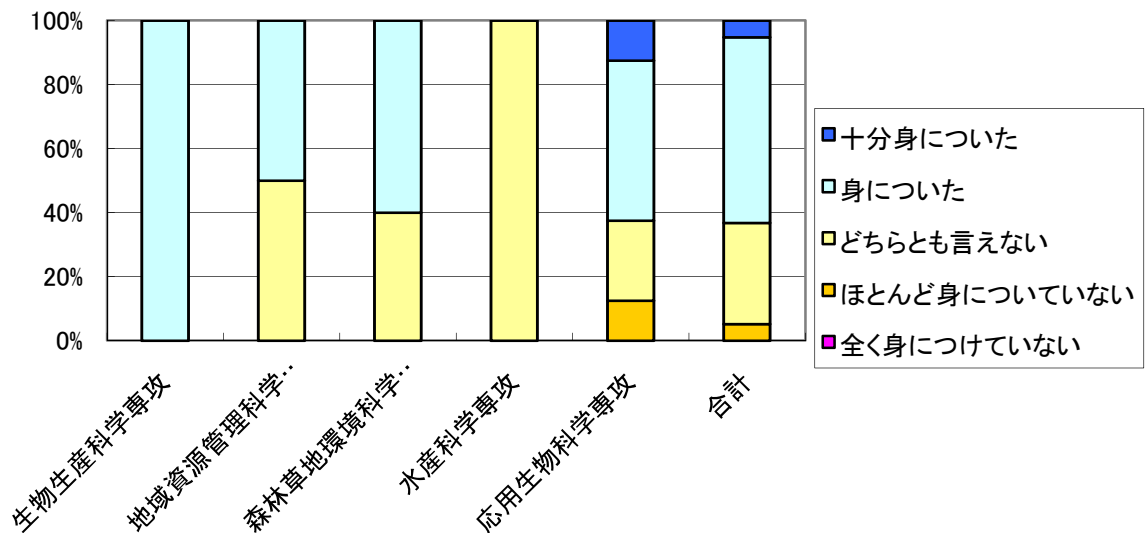
大学院修了生 質問6.「専門的な知識および技術を駆使して、課題を探求し、組み立て、解決する能力」が身につきましたか？



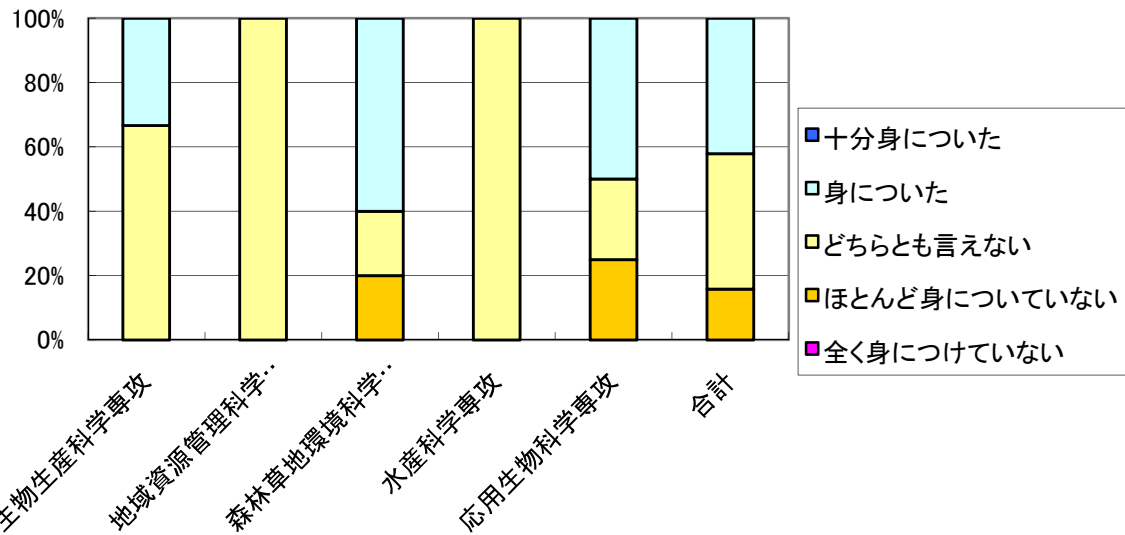
大学院修了生 質問7.「実社会において経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する能力と判断力」が身につきましたか？



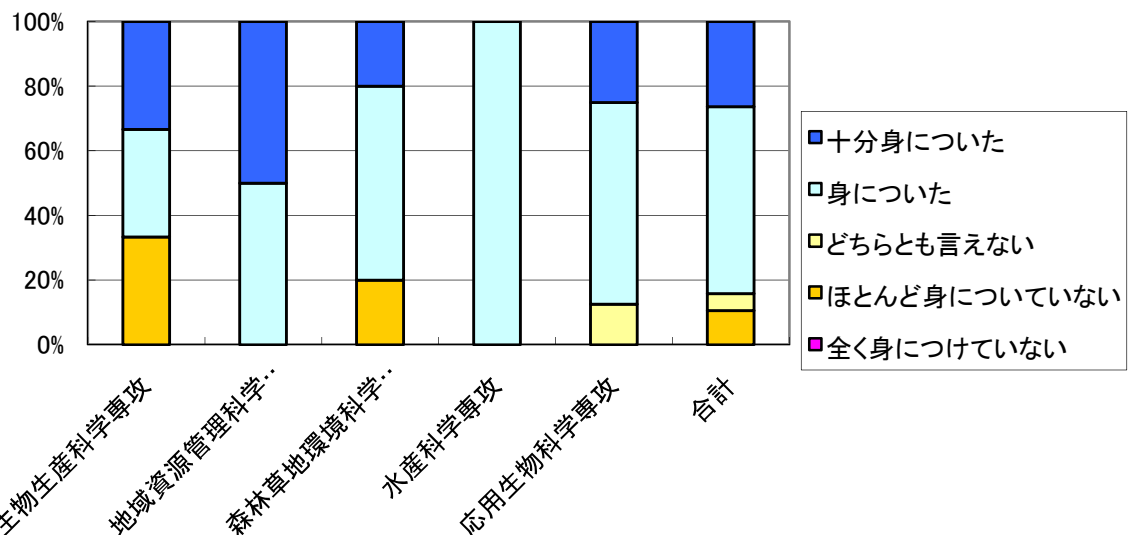
大学院修了生 質問8.「社会の要求に対して様々な情報を収集・分析し、対応策を企画する能力」が身に付きましたか？



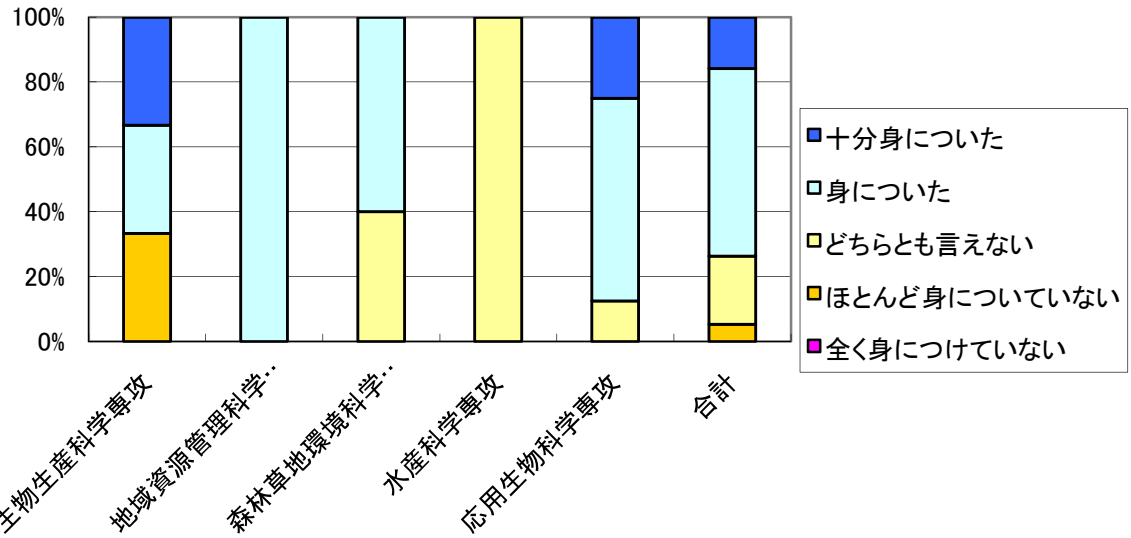
大学院修了生 質問9.「日本語による論理的な記述力, 口頭発表力, 討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力」が身につきましたか？



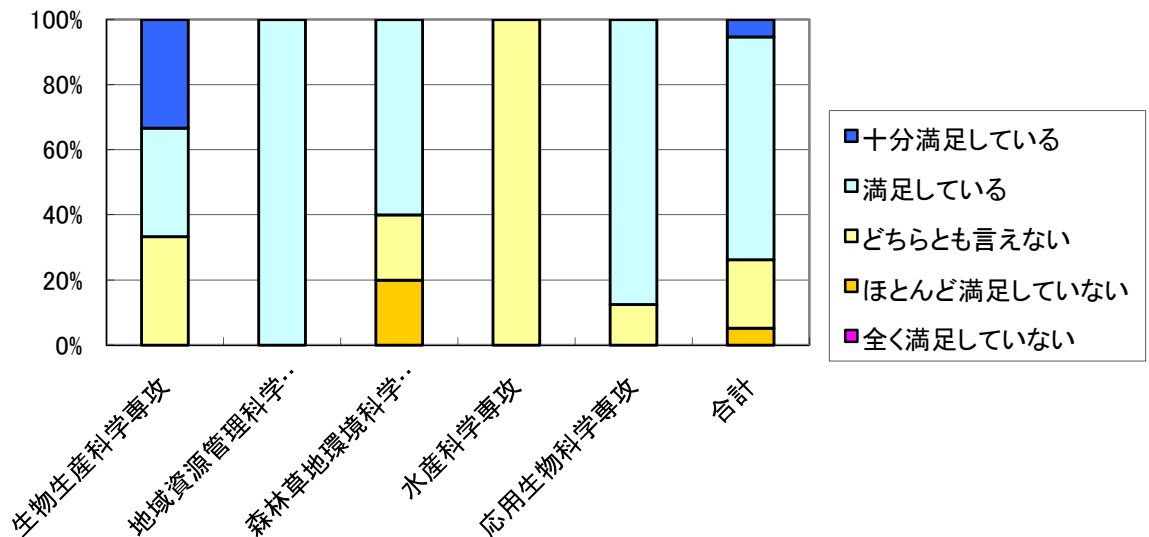
大学院修了生 質問10.「自主的、継続的に学習できる能力」が身につきましたか？



大学院修了生 質問11. 「与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力」が身につきましたか？

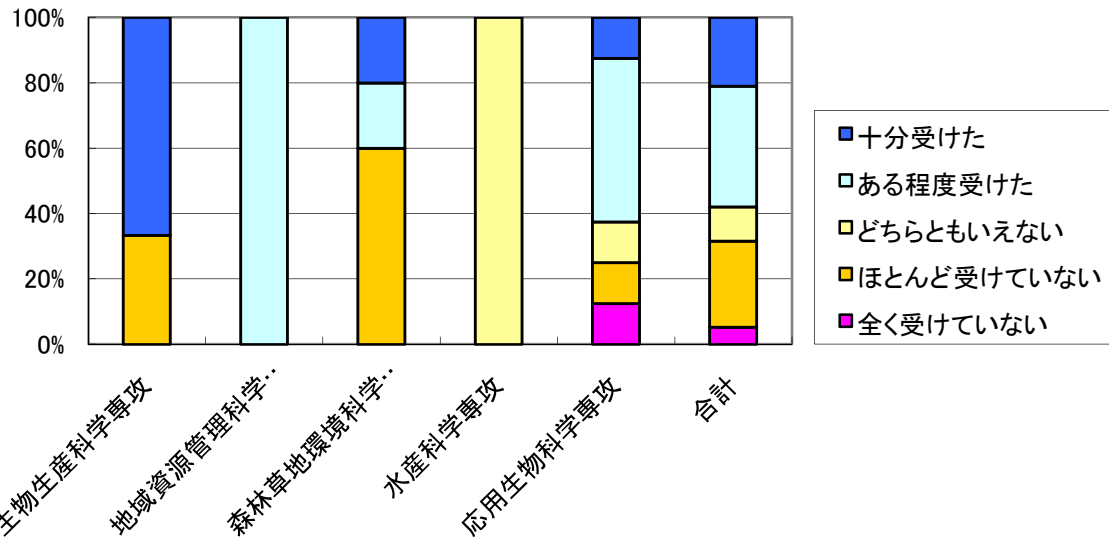


大学院修了生 質問12. 宮崎大学農学研究科で受けた教育に対する総合評価を次の5つの中からお選びください。

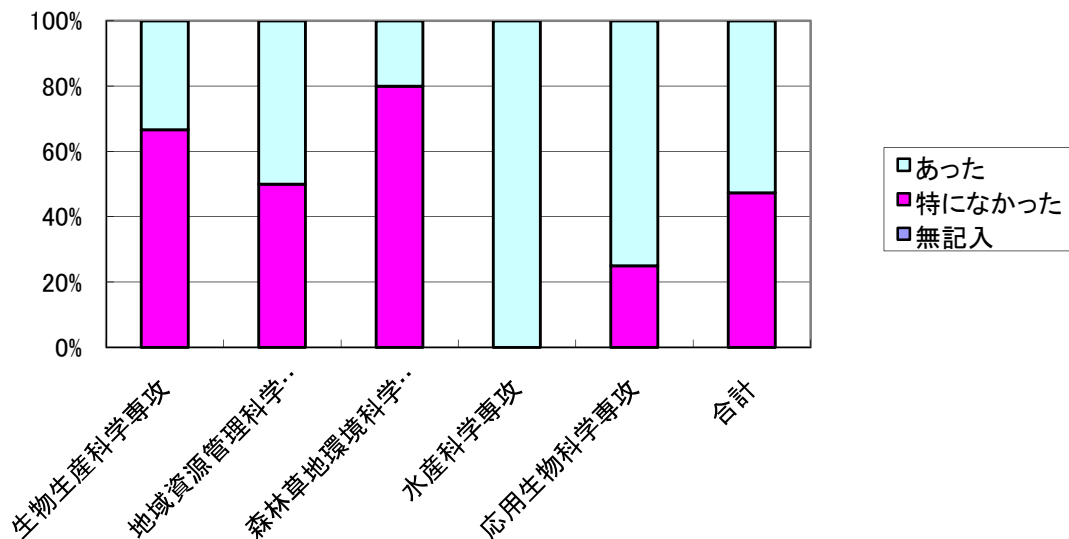




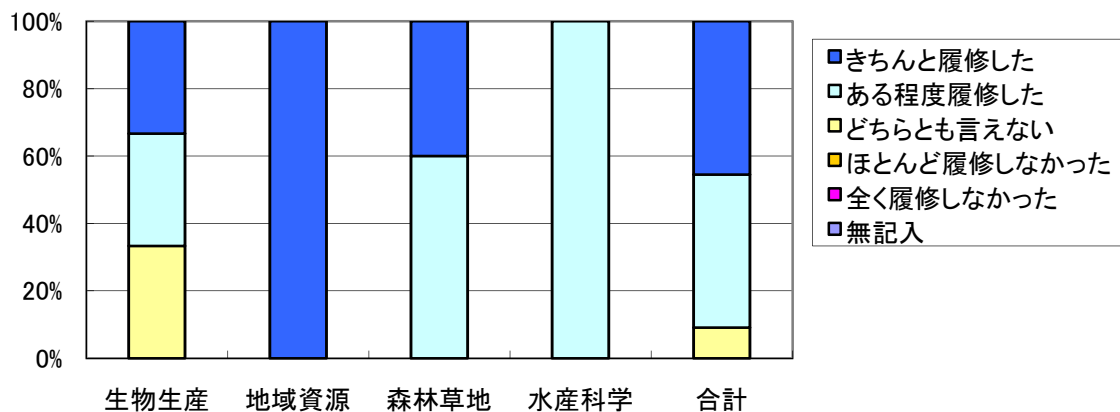
大学院修了生 質問13. 就職や進路決定において、クラス担任あるいは指導教員から適切なアドバイスを受けましたか？



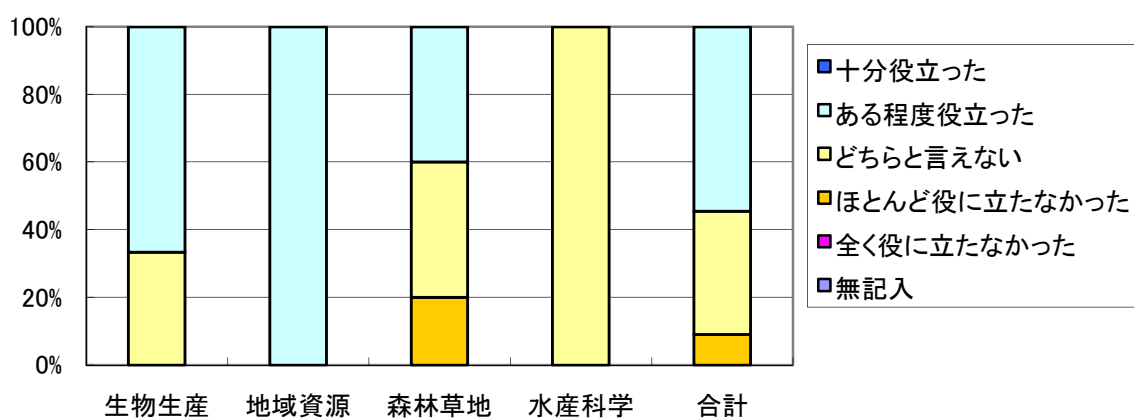
大学院修了生 質問14. 宮崎大学農学研究科及び各専攻・講座で受けた講義や実習の中で現在の業務に生かされていると思われるものがありましたか？



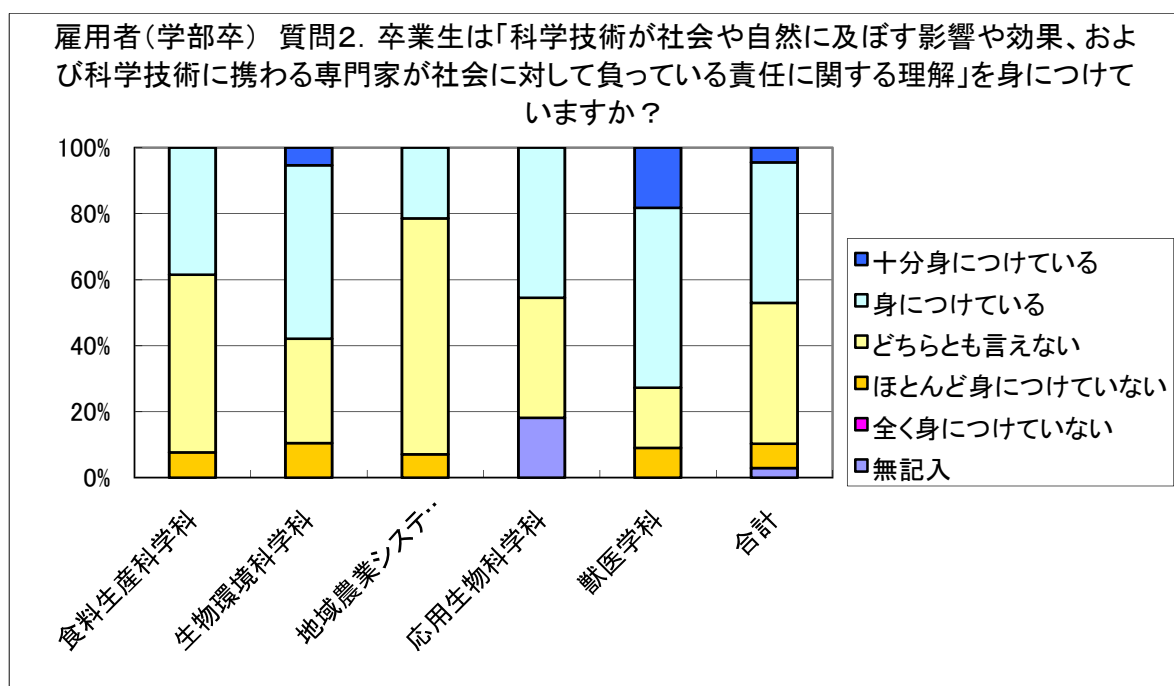
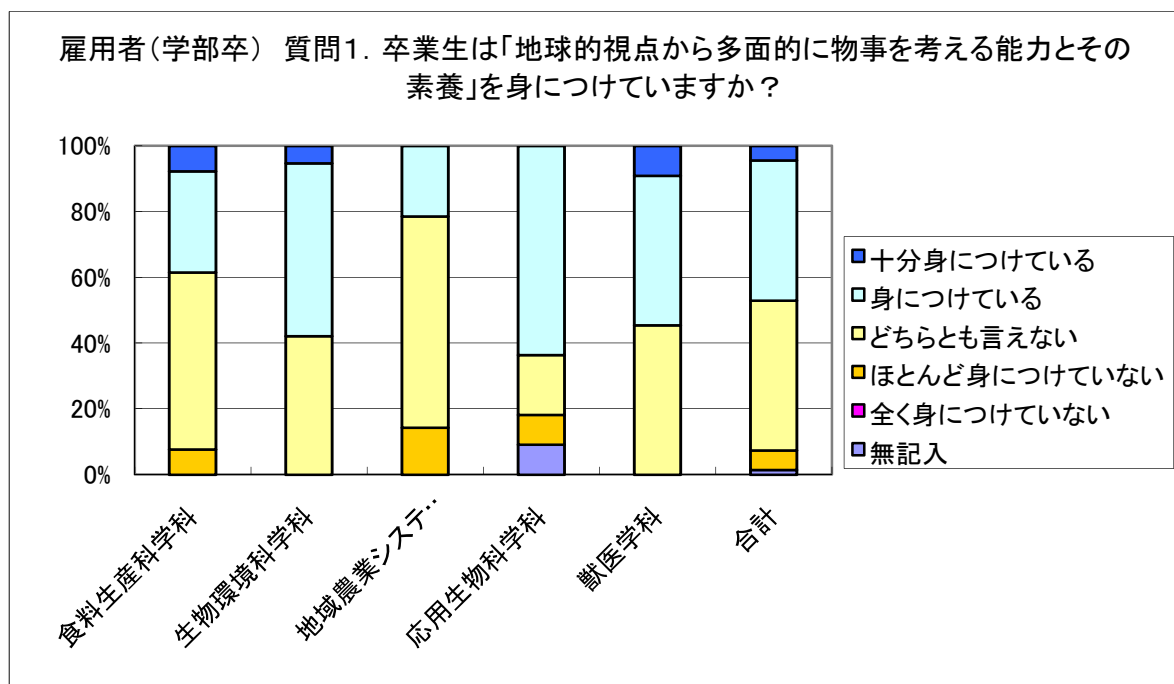
生物生産科学・地域資源管理科学・森林草地環境科学・水産科学専攻修了生対象  
質問1.「所属専攻・講座の各専門分野に関する履修モデル」に沿って専門の授業科目を履修しましたか？



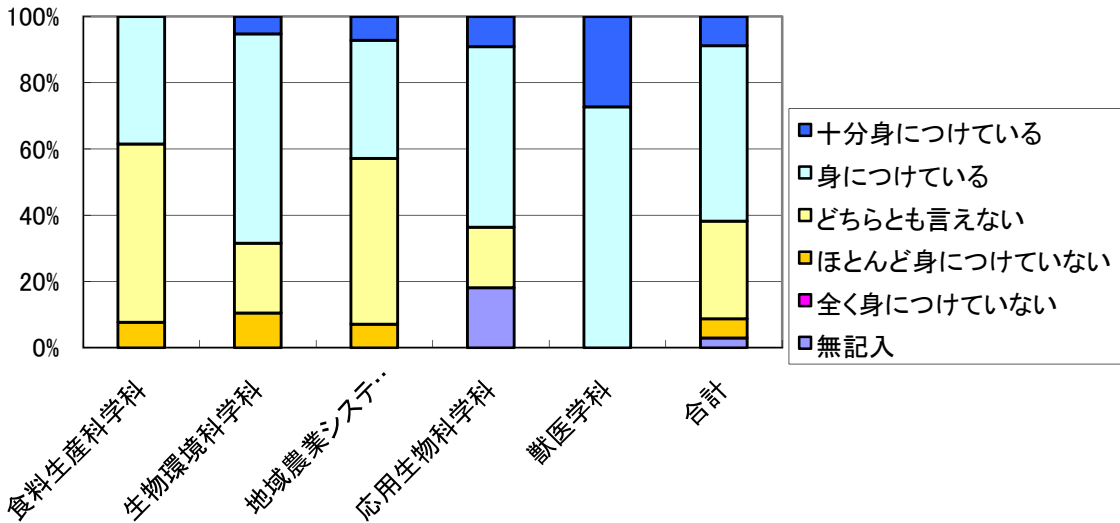
生物生産科学・地域資源管理科学・森林草地環境科学・水産科学専攻修了生対象  
質問2.「所属講座の各専門分野に関する履修モデル」は修士論文の作成や就職に役立ちましたか？



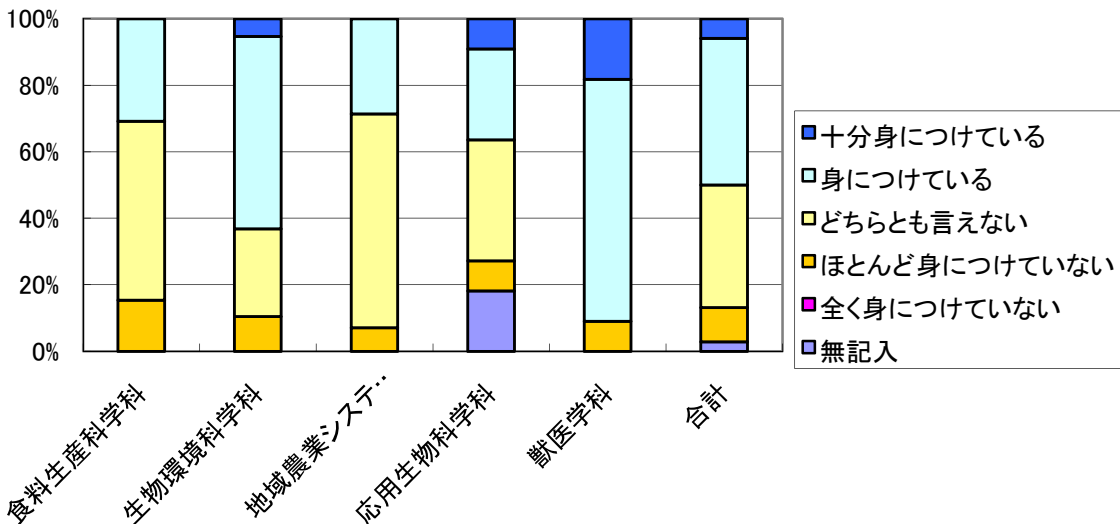
(3) 雇用者アンケート集計結果 (学部：学科別)



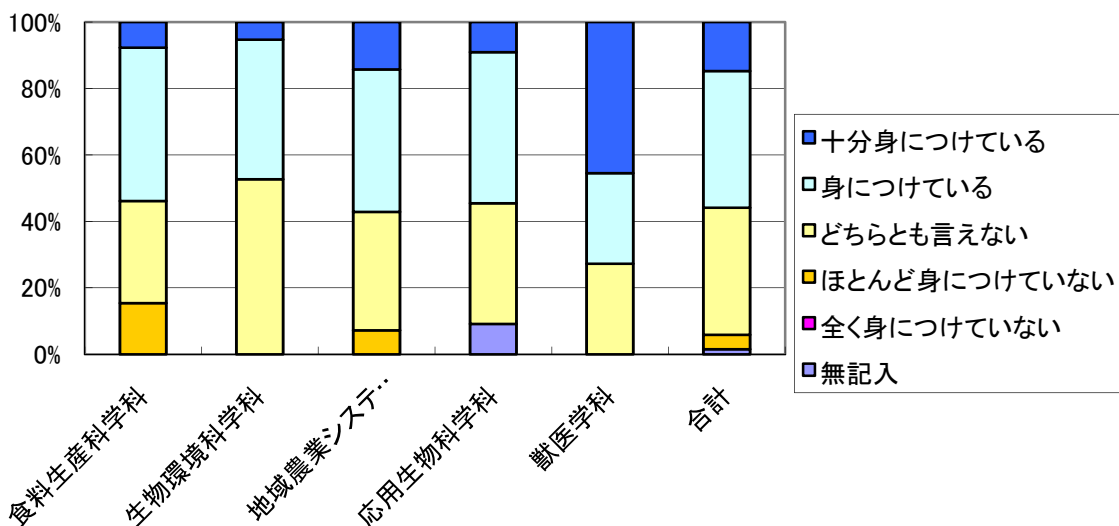
雇用者(学部卒) 質問3. 卒業生は「食料生産科学、生物環境科学、地域農業システム学、応用生物科学、獣医学に関する基礎知識」を身につけていますか？



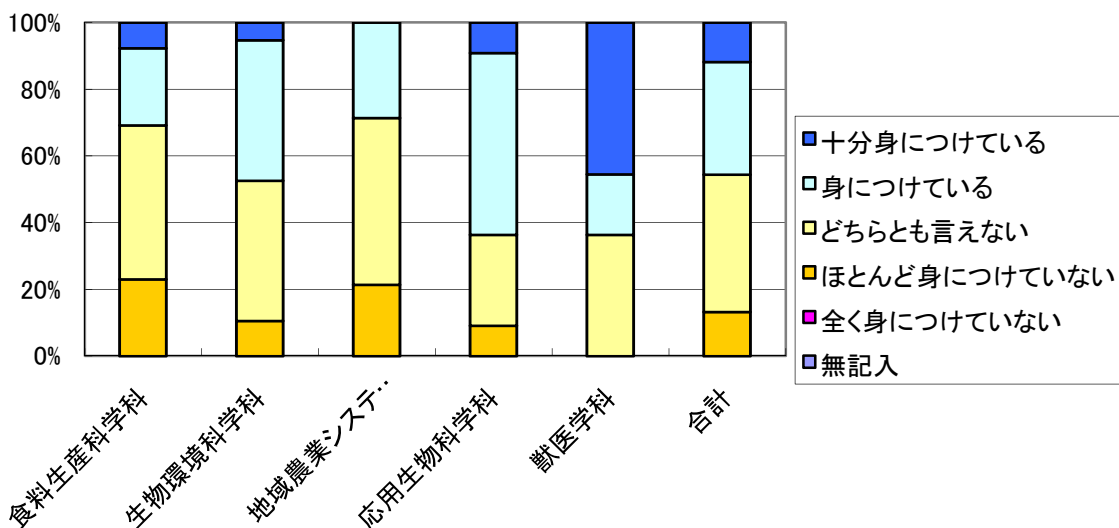
雇用者(学部卒) 質問4. 卒業生は「食料生産科学、生物環境科学、地域農業システム学、応用生物科学、獣医学の各関連科目の修得によって得られる専門的知識」を身につけていますか？



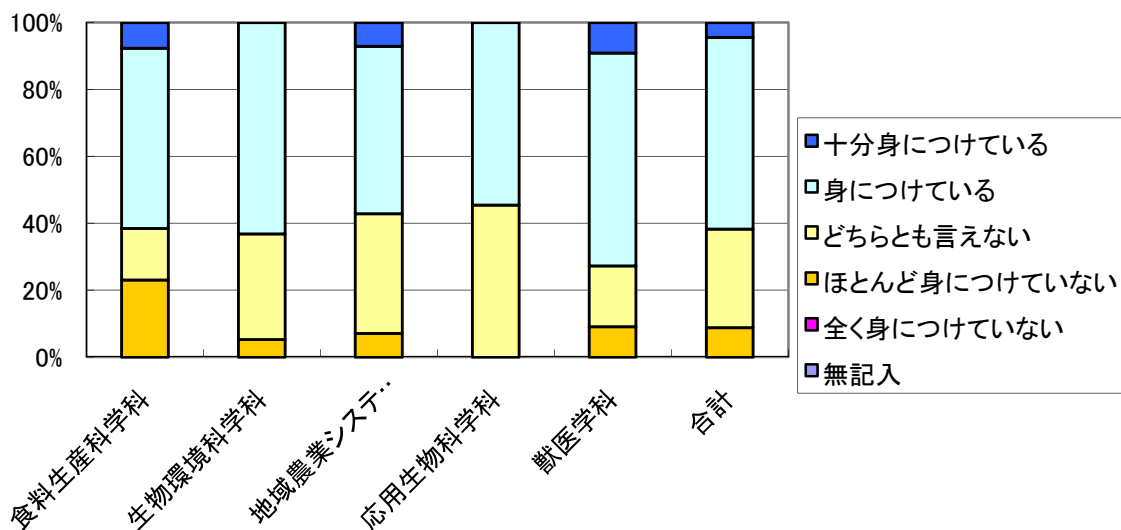
雇用者(学部卒) 質問5. 卒業生は「実験または調査を計画・遂行し、データを正確に解析・考察し、かつ説明する能力」を身につけていますか？



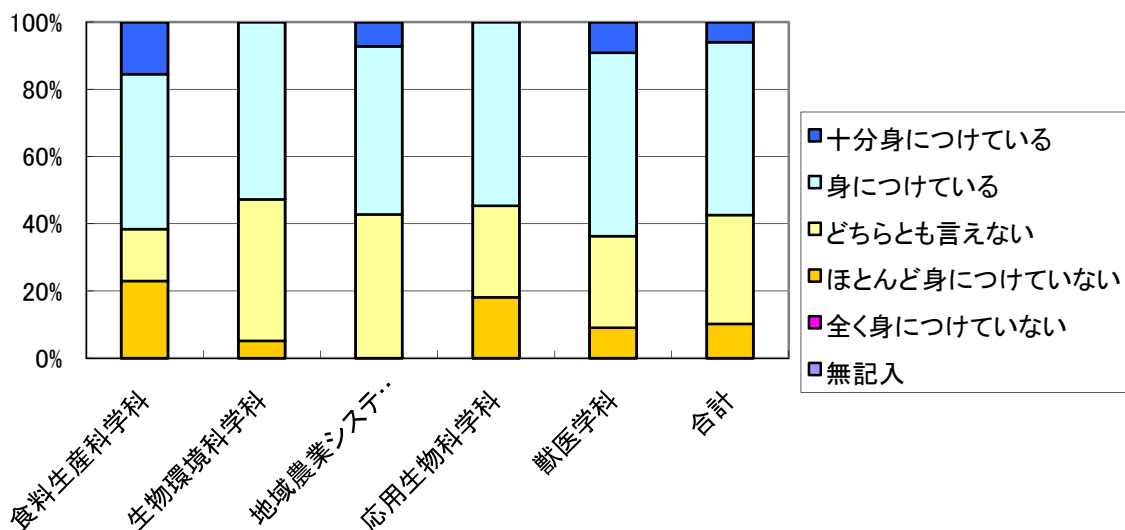
雇用者(学部卒) 質問6. 卒業生は「専門的な知識および技術を駆使して、課題を探求し、組み立て、解決する能力」を身につけていますか？



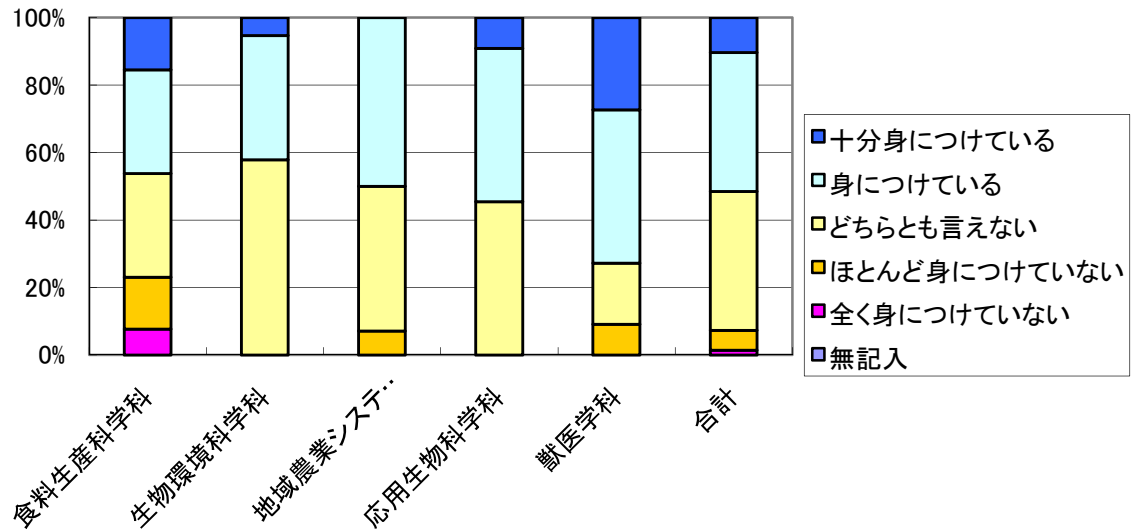
雇用者(学部卒) 質問7. 卒業生は「実社会において経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する能力と判断力」を身につけていますか？



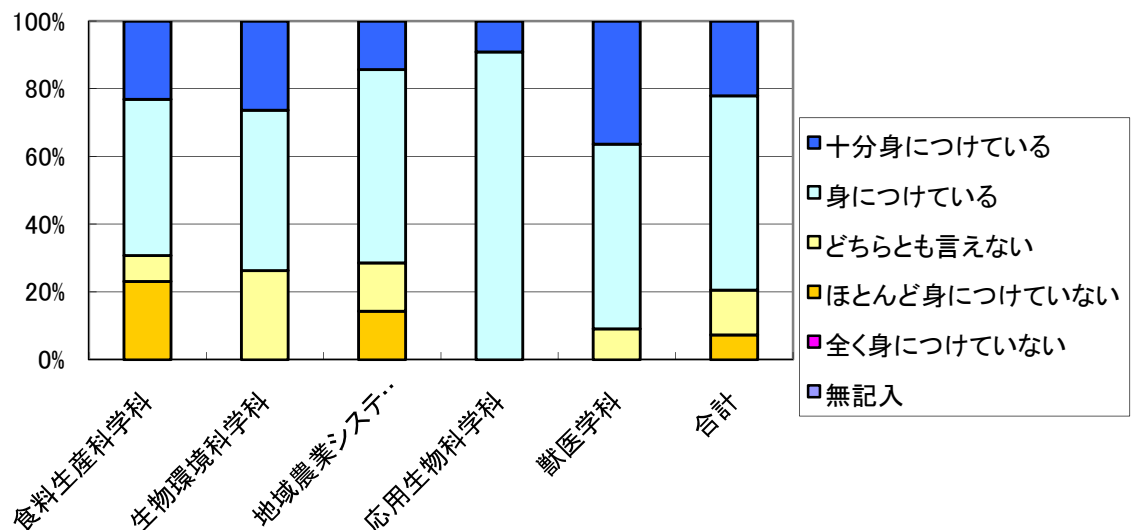
雇用者(学部卒) 質問8. 卒業生は「社会の要求に対して様々な情報を収集・分析し、対応策を企画する能力」を身につけていますか？



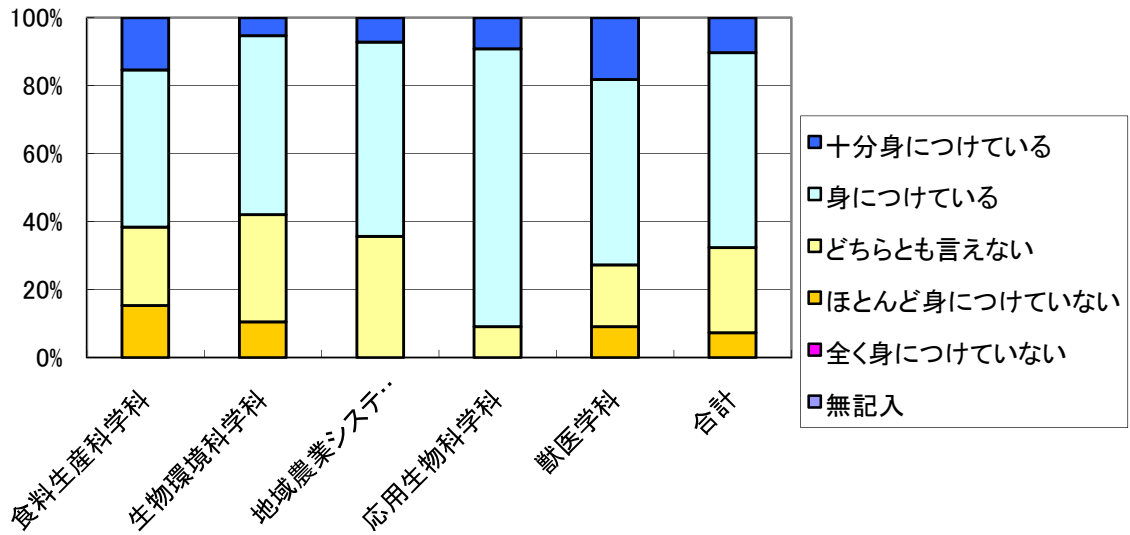
雇用者(学部卒) 質問9. 卒業生は「日本語による論理的な記述力, 口頭発表力, 討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力」を身につけていますか？



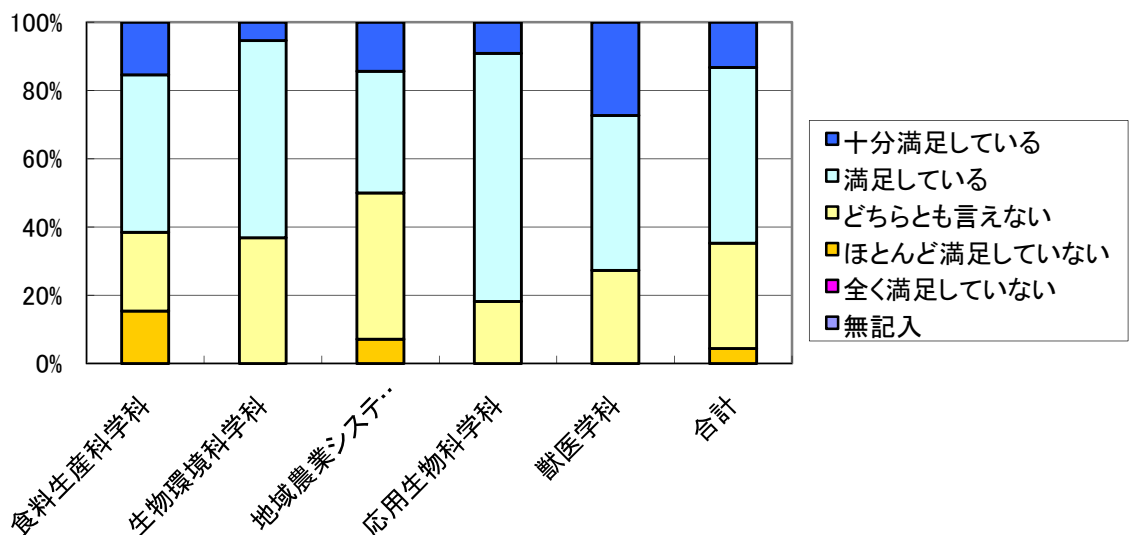
雇用者(学部卒) 質問10. 卒業生は「自主的、継続的に学習できる能力」を身につけていますか？



雇用者(学部卒) 質問11. 卒業生は「与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力」を身につけていますか？

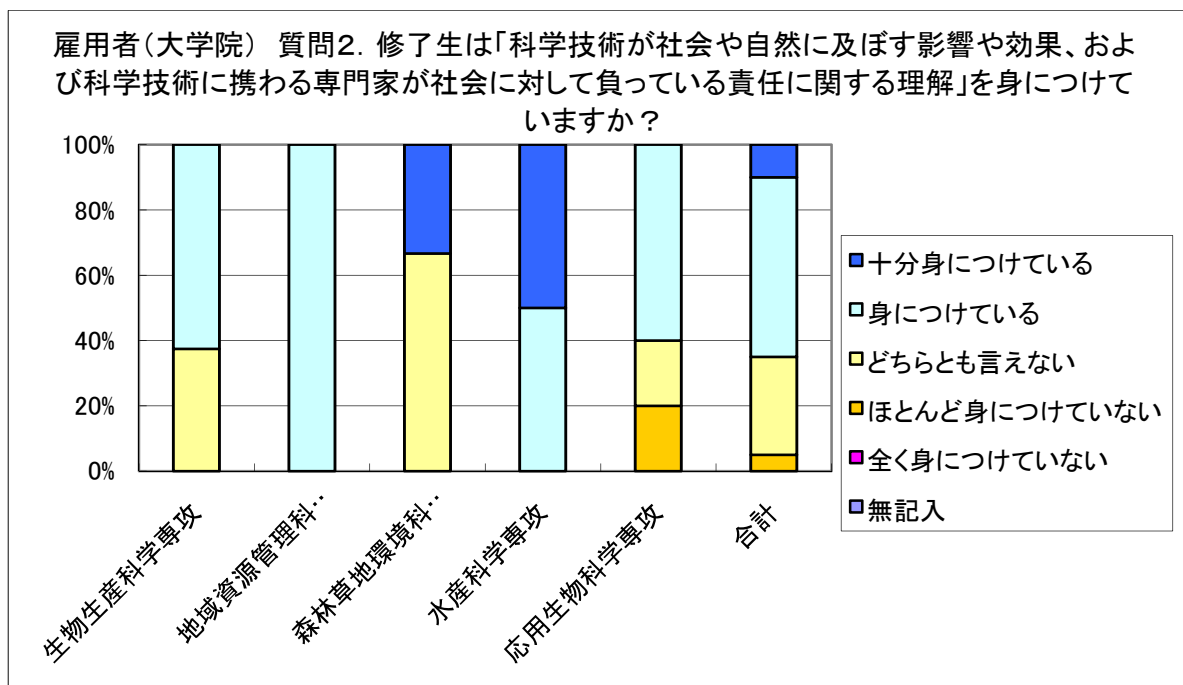
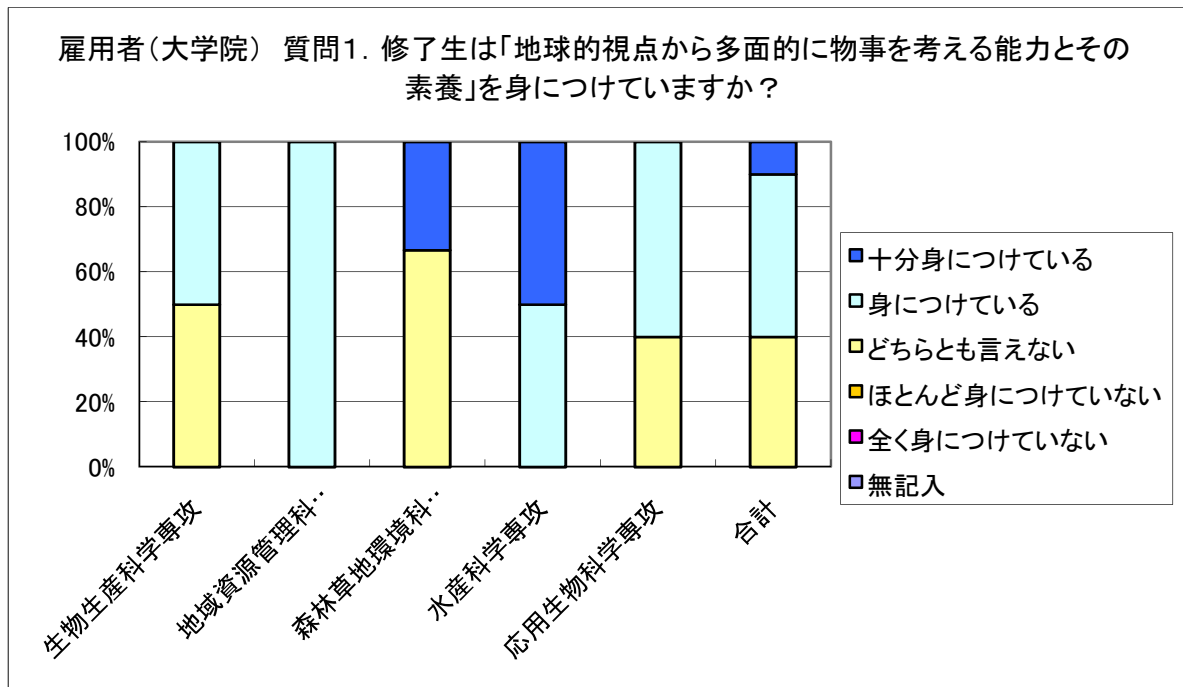


雇用者(学部卒) 質問12. 卒業生が宮崎大学農学部で受けた教育に対する総合評価を次の5つの中からお選びください。

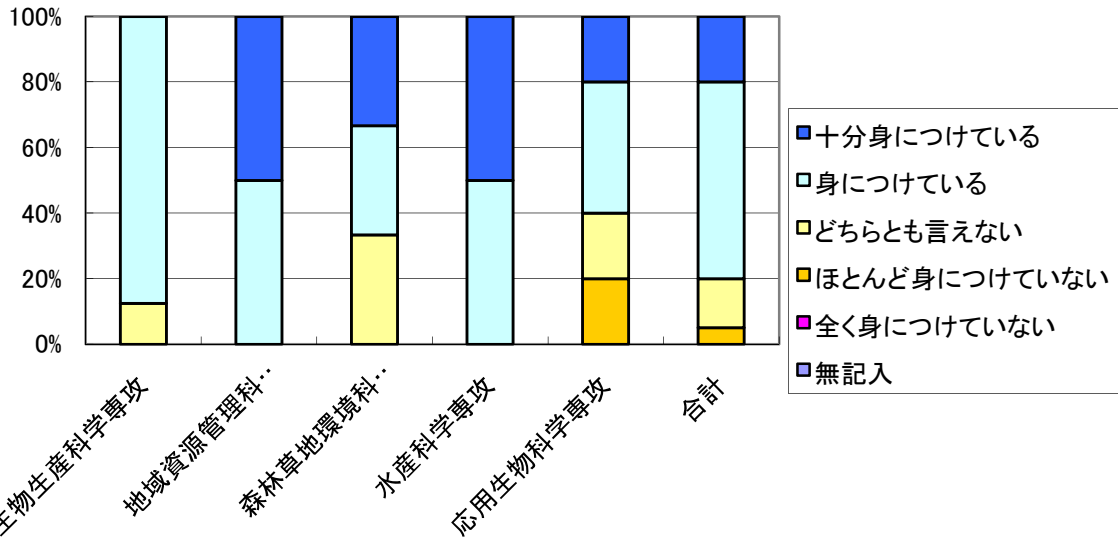




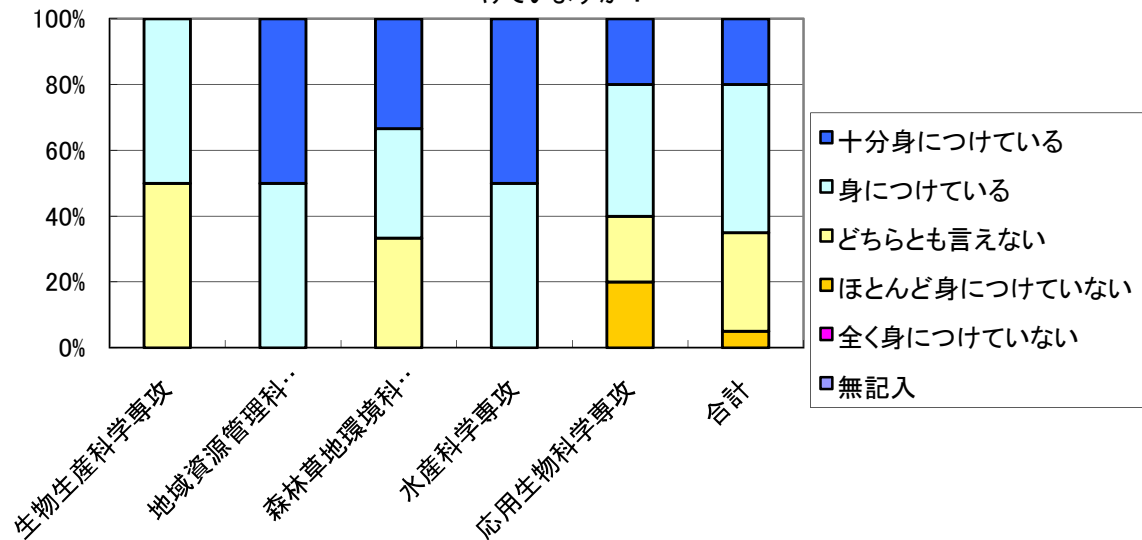
(4) 雇用者アンケート集計結果 (大学院：専攻別)



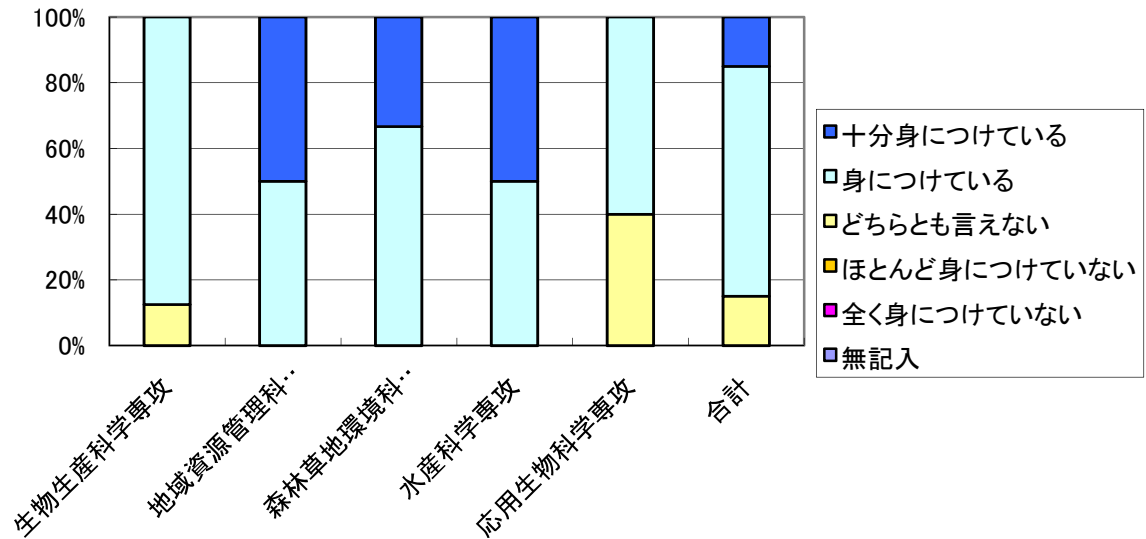
雇用者(大学院) 質問3. 修了生は「生物生産科学、地域資源管理科学、森林草地環境科学、水産科学、応用生物科学に関する基礎知識」を身につけていますか？



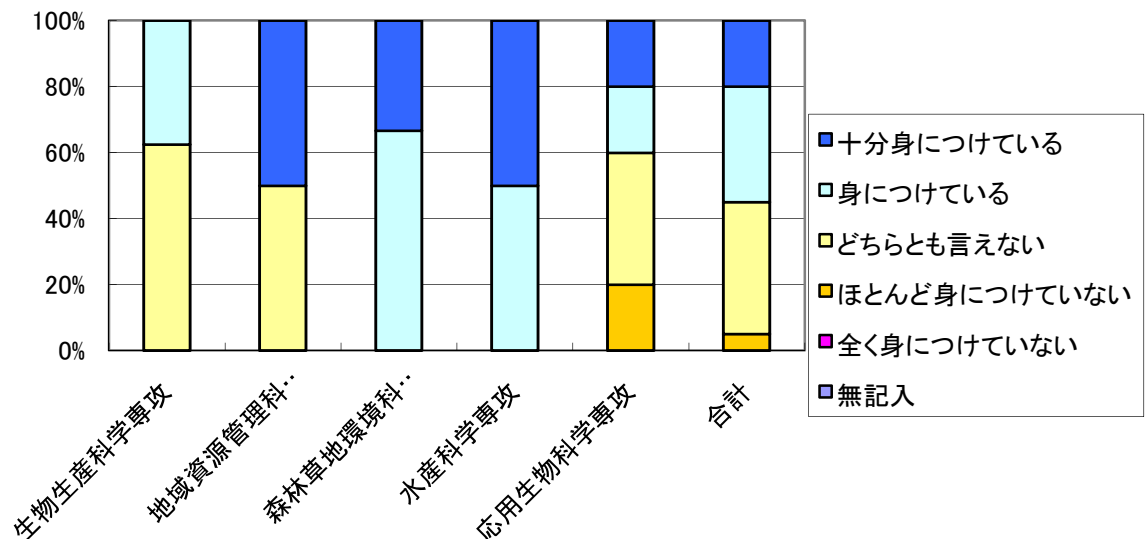
雇用者(大学院) 質問4. 修了生は「生物生産科学、地域資源管理科学、森林草地環境科学、水産科学、応用生物科学の各関連科目の修得によって得られる高度な専門的知識」を身につけていますか？



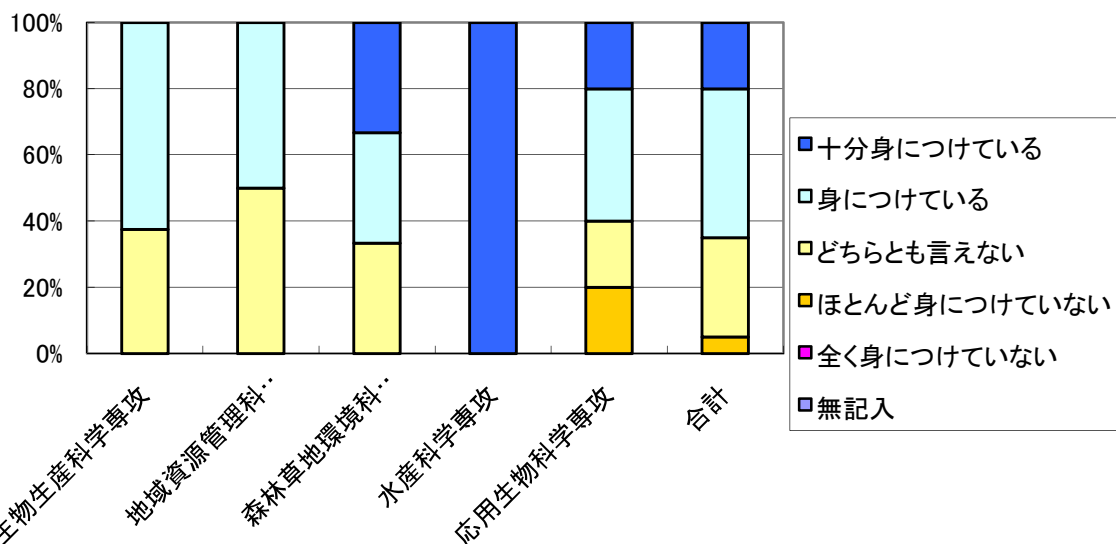
雇用者(大学院) 質問5. 修了生は「実験または調査を計画・遂行し、データを正確に解析・考察し、かつ説明する能力」を身につけていますか？



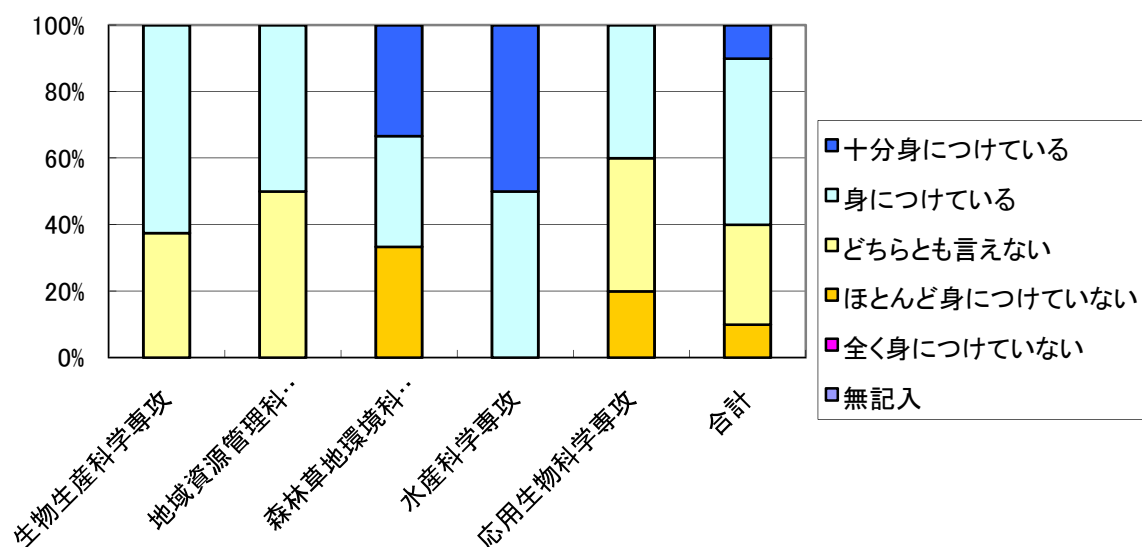
雇用者(大学院) 質問6. 修了生は「高度な専門的な知識および技術を駆使して、課題を探求し、組み立て、解決する能力」を身につけていますか？



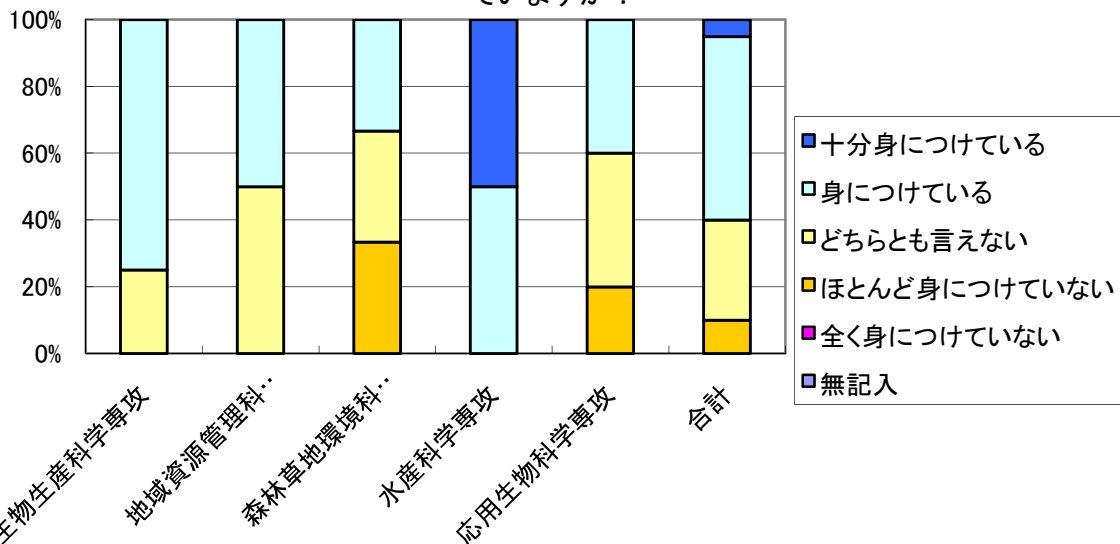
雇用者(大学院) 質問7. 修了生は「実社会において経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する能力と判断力」を身につけていますか？



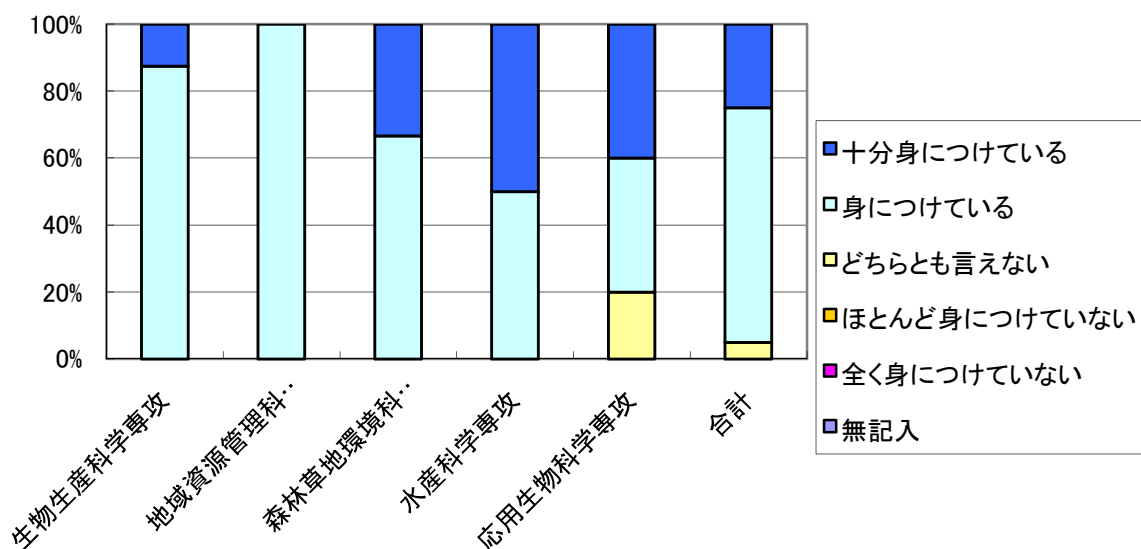
雇用者(大学院) 質問8. 修了生は「社会の要求に対して様々な情報を収集・分析し、対応策を企画する能力」を身につけていますか？



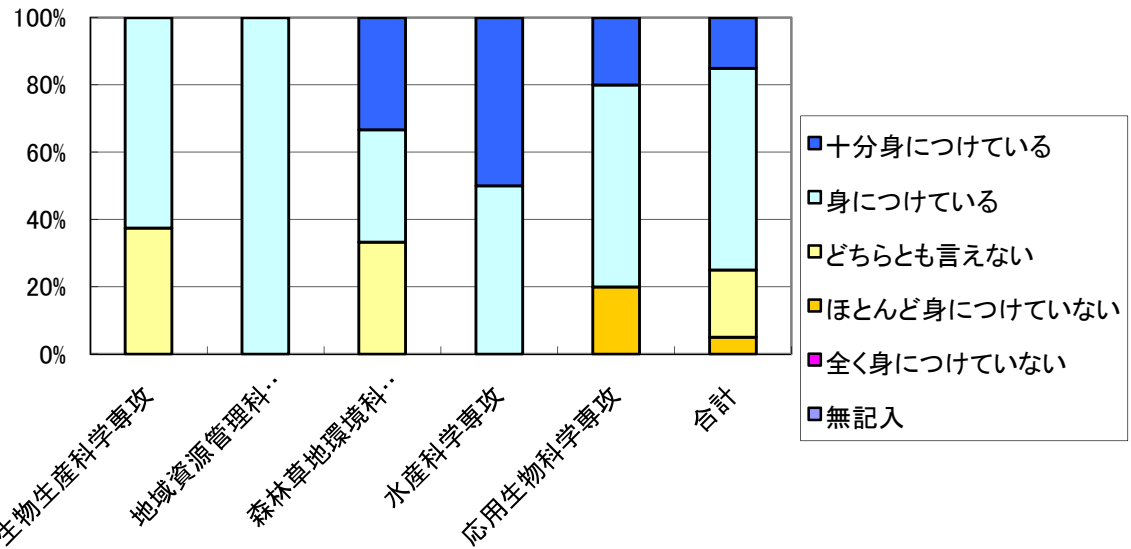
雇用者(大学院) 質問9. 修了生は「日本語による論理的な記述力, 口頭発表力, 討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力」を身につけていますか？



雇用者(大学院) 質問10. 修了生は「自主的、継続的に学習できる能力」を身につけていますか？



雇用者(大学院) 質問11. 修了生は「与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力」を身につけていますか？



雇用者(大学院) 質問12. 修了生が宮崎大学大学院農学研究科で受けた教育に対する総合評価を次の5つの中からお選びください。

